

公益社団法人

全国柔道整復学校協会

会報

令和5年7月

第67号

- ◆ 第65回教員研修会の開催
- ◆ 令和5年度定時総会（令和4年度事業報告及び決算報告）
- ◆ わが街の見どころ聞きどころ（九州医療スポーツ専門学校）
- ◆ 教員紹介リレー（呉竹医療専門学校 川口央修先生）

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

柔道整復学校養成施設倫理綱領

主 旨

公益社団法人全国柔道整復学校協会は、質の高い柔道整復師育成を以って国民の保健衛生の向上に寄与するため、柔道整復師養成施設（以下「学校」という）の倫理綱領を定める。

1. 学校の使命

学校は、国民の保健衛生の向上に寄与する柔道整復師を養成することを使命とし、建学の精神と理念を実践し、教育水準の維持及び質の向上に努める義務と社会的責務を全うするものとする。

2. 教育水準の維持及び質の向上

学校は、常に教員の資質の向上と教育内容の充実を図るとともに、多種多様な分野に対応し得る質の高い専門的教育を推進し、社会に求められる柔道整復師の育成に努める。

3. 自主性と他校連携

学校は、建学の精神と理念に基づき自主性をもった学校運営を行う中で、教育水準の維持及び質の向上を念頭に、他校とも連携し、社会に貢献できる柔道整復師を育成することに努める。

4. 法令等の遵守

学校は、養成施設指定規則及び指導ガイドライン並びにその他の法令を遵守すると同時に、公序良俗に違反する行為を排し、柔道整復師養成施設としての社会的責務を果たす中で、国民からの信頼と期待を得ることに努める。

5. 学校評価の推進

学校は、質の高い教育とよりよい教育環境の整備と充実を図るため、自己点検・自己評価の実施はもとより、第三者評価にも積極的に取り組み、同時にこれに基づいた情報公開を行うことで、透明性の高い学校運営に努める。

平成 29 年 12 月

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

会報

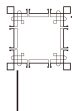


令和5年 ● 第67号

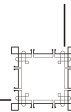
目次

頁

第65回教員研修会の開催について	2
令和4年度臨時総会、研修会	
臨時総会議事録	3
研修会開催報告	6
令和5年度定時総会	
定時総会議事録	10
令和4年度事業報告及び決算報告	13
理事会議事録	
・令和4年度第14回、令和5年度第1回	51
【委員会の状況】	
・教育支援委員会専科教員認定講習部会	
令和5年度第1回部会議事録	60
令和5年度第2回部会議事録	63
教育支援委員会柔道整復師国家試験模擬試験部会	
令和5年度第1回部会議事録	64
・広報・調査委員会	
令和5年度第1回委員会議事録	66
・柔道委員会	
令和5年度第1回委員会議事録	69
令和5年度第2回委員会議事録	71
【わが街の見どころ聞きどころ】	
・「北九州はでたんいいとこちゃ」（九州医療スポーツ専門学校）	74
【教員紹介リレー】	
・呉竹医療専門学校 川口央修先生	78
【各名簿】	
・正会員一覧、学校理事長・校長・正会員名簿、賛助会員名簿、委員（部）会員名簿	86
・編集後記	94
・学校協会案内図	



第65回教員研修会の開催について



令和5年度第65回教員研修会は、下記のプログラムのとおり開催いたします。

超高齢化社会における柔道整復師の地域貢献への期待がますます高まっていることから、地域へ質の高い医療を提供できる柔道整復師の養成に繋がる「教育力向上」に寄与するプログラムを構成しました。「柔道整復の新時代へ」のテーマのもと、国立看護大学校 生命科学 教授の本間 典子先生による講演をはじめとして、教育に関する最新のトピックスが網羅されています。

全国柔道整復学校協会ホームページをご確認の上、ご参加いただきますようお願い申し上げます。

開催にあたり各校の格別のご高配、ご協力をお願い申し上げ、多くの先生のご参加をお待ちしております。

令和5年 第65回 教員研修会プログラム				
メインテーマ：『柔道整復の新時代へ』			リーガロイヤルホテル小倉	
●研修会 1日目			令和5年9月23日(土・祝)	
12:00	◆受付開始			敬称略
13:00	◆開会式(40分)			
	・開会の辞	公益社団法人 全国柔道整復学校協会	担当理事	伊藤 謙
	・会長挨拶	公益社団法人 全国柔道整復学校協会	会長	谷口 和彦
	・主幹校挨拶	学校法人国際学園 九州医療スポーツ専門学校	理事長	水嶋 章陽
	・来賓祝辞	公益財団法人 柔道整復研修試験財団	代表理事	今別府 敏雄
	・来賓祝辞	公益社団法人 日本柔道整復師会	会長	長尾 洋彦
	・来賓祝辞	一般社団法人 日本柔道整復接骨医学会	会長	安田 秀喜
	・来賓祝辞	一般社団法人 柔道整復教育評価機構	理事長	関口 正雄
13:40	・役員紹介			
13:45	◆講演1(90分) 【人体のカタチを味わう喜び～VR/AR技術を活用した教育実践～】			会場:4階 ロイヤルホール
	国立看護大学校 生命科学 教授 本間典子			
15:15	座長:学校法人平成医療学園 平成医療学園専門学校 校長 北野吉廣			
休憩(15分)				
15:30	◆分科会(70分)			会場:4階 ロイヤルホール
	第1テーマ 【学習の困難な基礎医学が先端技術を使ったら克服できる?～VR図解を使った授業を提案～】			
	学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター 研究員 小林英一			
	座長:学校法人大森学園 四国医療専門学校 柔道整復学科 教員 四宮英雄			
	第2テーマ 【骨折・脱臼・疾患の実態～動画で学ぶ柔道整復術～】			会場:3階 ダイヤモンド
	学校法人森ノ宮医療学園 森ノ宮医療学園専門学校非常勤講師 / 宮越接骨院・鍼灸院 宮越亮典			
	座長:学校法人森ノ宮医療学園 森ノ宮医療学園専門学校 教員 葉山直史			
	第3テーマ 【経験したことのない徒手整復を教える?教えない?～3Dアプリによる発生機転の理解からシミュレーターを用いた実技教育へ～】			会場:4階 クリスタル
	日本体育大学 保健医療学部 整復医療学科 教授 伊藤謙			
16:40	座長:教員研修部会 前部会長 本澤光則			
休憩(10分)				
16:50	◆ポスターセッション(40分)			会場:4階 サファイヤ
17:30	助成金交付発表 5題 一般公募発表 2題			
●懇親会 受付18:00～ 会場:3階 エンパイルーム				
18:15	・開会挨拶	学校法人国際学園 九州医療スポーツ専門学校	校長	赤木 恭平
	・来賓祝辞	公益社団法人 福岡県柔道整復師会	会長	塩川 哲也
	・乾杯	公益社団法人 全国柔道整復学校協会	顧問	櫻井 康司
20:00	・中締め	公益社団法人 全国柔道整復学校協会	監事	米田 忠正
●研修会 2日目			令和5年9月24日(日)	
9:00	◆講演2(85分) 【7世代の学生を国家試験合格に導く目標達成の技術】			会場:4階 ロイヤルホール
	アチーブメント株式会社 代表取締役会長兼社長 青木仁志			
10:25	座長:学校法人国際学園 九州医療スポーツ専門学校 理事長 水嶋章陽			
休憩(10分)				
10:35	◆講演3(85分) 【学生の心をつかむ話し方～PREPAを用いたコミュニケーション力向上で進学率減少を目指す～】			会場:4階 ロイヤルホール
	株式会社スピーチャパン 代表取締役 三橋泰介			
12:00	座長:学校法人国際学園 九州医療スポーツ専門学校 教務部長 桑野幸仁			
12:05	◆閉会式(15分)			
	・次年度主幹校挨拶 学校法人小倉学園 新宿医療専門学校			校長 小倉 芳裕
12:20	・閉会の辞 公益社団法人 全国柔道整復学校協会			副会長 関口 正雄

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

令和4年度 臨時総会議事録

1. 開催日時 令和5年3月17日（金）15：05～15：25

2. 開催場所 浜松町コンベンションホール大会議室B
東京都港区浜松町二丁目3番1号日本生命浜松町クレアタワー6階
なお、事前に申し込みがあった正会員9名については、当協会所定のインターネットシステム（以下、「本システム」という。）を通じて本総会に出席した。

3. 定足数算定の基礎となる正会員数 45名

4. 出席者

(1) 理事（正会員） 6名

谷口 和彦	会長 学校法人明治東洋医学院	関口 正雄	副会長 東京メディカル・スポーツ専門学校
齊藤 秀樹	東京医療専門学校	廣岡 聡	関西医療学園専門学校
田中 雅博	履正社国際医療スポーツ専門学校	大麻 正晴	四国医療専門学校

(2) 理事（非正会員） 1名

伊藤 譲	日本体育大学保健医療学部
------	--------------

(3) 監事（正会員） 2名

米田 忠正	米田柔整専門学校	清水 尚道	森ノ宮医療学園専門学校
-------	----------	-------	-------------

（なお、清水尚道は、本システムを通じて本総会に出席した）

(4) 正会員 17名

早坂 正利	北海道ハイテクノロジー専門学校	坂本 正憲	赤門鍼灸柔整専門学校
平澤 淳	大川学園医療福祉専門学校	八亀俊一郎	呉竹医療専門学校
下地 秀和	日本柔道整復専門学校	奥田 久幸	日本医学柔整鍼灸専門学校
桑原 淳	スポーツ健康医療専門学校	都築 稔	関東柔道整復専門学校
瀧 将仁	アルファ医療福祉専門学校	村上 哲二	呉竹鍼灸柔整専門学校

森島 康之	専門学校浜松医療学院	清水 洋二	中和医療専門学校
碓井 貞成	北信越柔整専門学校	北野 吉廣	平成医療学園専門学校
坂本 博	近畿医療専門学校	水野 晋悟	河原医療福祉専門学校
鈴木 信司	専門学校沖縄統合医療学院		

(なお、早坂正利、平澤 淳、桑原 淳、瀧 将仁、森島康之、碓井貞成、坂本 博、水野晋悟の8名は、本システムを通じて本総会に出席した)

(5) 委任状提出者 20名

小池 良二	北海道柔道整復専門学校	栗島 秀行	盛岡看護医療大学校
嶋谷 夕美	仙台接骨医療専門学校	岸野 雅方	福島医療専門学校
中島 利郎	中央スポーツ医療専門学校	千葉 茂	日本工学院八王子専門学校
大橋 博	日本健康医療専門学校	永野 修	新宿医療専門学校
殿村 康一	東京医療福祉専門学校	竹本 雅信	名古屋医健スポーツ専門学校
竹本 雅信	京都医健専門学校	古谷 圭司	東洋医療専門学校
岡田 典世	関西健康科学専門学校	津島 伸章	朝日医療大学校
本廣 淳範	IGL医療福祉専門学校	藤瀬 武	福岡医療専門学校
古谷野 潔	福岡医健・スポーツ専門学校	大川 照明	福岡天神医療リハビリ専門学校
水嶋 章陽	九州医療スポーツ専門学校	門司 誠一	九州医療専門学校

5. 議 長 村上 哲二 (呉竹鍼灸柔整専門学校)

6. 議事録作成者 永田 昭彦 (公益社団法人全国柔道整復学校協会事務局長)

7. 議事次第

審議事項

議案 役員の選任の件

8. 会議の概要

(1) 開会

議事に先立ち、進行役を務める事務局長より、臨時総会の開会宣言の後、本総会の正会員出席者は25名、欠席者は20名、ただし欠席者全員から委任状が提出され、定款第17条に基づく総正会員の議決権の過半数(23名)以上であり、本総会は適法に成立していると報告。あわせて、本システムにより出席した正会員については、議場と適時的確な意見表明が互いにできる状態であることが確認された。

続いて、谷口会長が挨拶を行った。

(2) 議案の審議状況及び議決結果等

事務局長が、定款第15条に基づく議長の選出について本総会に諮ったところ、司会者一任とされたことから、司会者は呉竹鍼灸柔整専門学校の上村哲二正会員を指名、本総会は異議なく賛成し、村上正会員も議長就任を承諾した。

続いて議長より、定款第18条第2項の規定に基づき、本総会に出席した正会員より選出される議事録署名人2名の選出について総会に諮ったところ、議長一任とされたことから、中和医療専門学校の清水洋二正会員と平成医療学園専門学校の北野吉廣正会員の両名を指名し、本総会は2名の議事録署名人を承認、両正会員も就任を承諾した。

審議事項

議案 役員の選任の件

上記議案について、議長から谷口会長に対し説明を行うよう求めた。

谷口会長から、今回は高山雅行理事の役員辞意表明に伴う後任役員の選任であることから、総会に設置した役員選考委員会による任期満了に伴う改選時の方法ではなく、理事会で推薦を決議した日本医学柔整鍼灸専門学校の奥田久幸正会員を後任役員に選任願いたい、と役員改選の理由及び役員選任について説明。

議長は、質疑に入ることを告げ、質問及び意見を求めたが発言が無いことから挙手による採決を行うことを告げ、その結果、出席正会員の過半数の賛成で提案どおり承認可決された。なお、被選任者の奥田正会員は本総会に出席しており、席上、就任を承諾した。

議長は、議事に対する審議を終了した旨を述べ、令和4年度臨時総会の閉会を宣した。

本総会の議事経過の概要を記載、その内容を明確にするため、議長及び議事録署名人2名が記名押印する。

令和5年3月17日

議長 村上哲二 印

議事録署名人 清水洋二 印

議事録署名人 北野吉廣 印

研修会開催報告

広報・調査委員会

副委員長 鹿庭 祥平

令和5年3月17日（金）、令和4年度臨時総会、会員協議会終了後、浜松町コンベンションホール大会議室Bにおいて、ZOOMによるオンライン併用形式にて研修会が開催されました。研修会内容について、次のとおり取り纏めたので、報告致します。

演題：オンライン授業で教育効果を高めるために必要な3つのこと

講師：日本体育大学保健医療学部整復医療学科 教授

公益社団法人全国柔道整復学校協会 理事

伊藤 譲 先生

1. オンライン授業に関する用語

用語確認のための関係法規

放送大学学園法

放送大学は、テレビ・ラジオといった通信技術を効果的に活用して教育を実施する機関として創設された。放送による授業を行うとともに、面接による授業等を行うことを目的とする。

大学通信教育設置基準（文部科学省令）

通信制大学の授業は、印刷教材の他、これに準ずる映像等の教材を送付もしくは指定し、もしくはその内容をインターネットその他の高度情報通信ネットワークを通じて提供する。

「印刷教材等による授業」、「映像等の視聴による放送授業」、「面接授業もしくはメディアを利用して行う授業」のいずれかまたはこれらの併用により学修する。

文部科学省告示第24号

遠隔授業が授業として認められる条件として、「同時かつ双方向に行われる」、「毎回の授業の実施に当たって設問解答、添削指導、質疑応答等による指導を併せ行う」、「当該授業に関する生徒の意見の交換の機会が確保されている」ことが必要となる。

設問解答、添削指導、質疑応答等による指導は、毎回の授業において行う必要があり、包括的に行うことは認められない。

専修学校設置基準の一部を改正する省令の施行等について（通知）

従来、遠隔授業は同時かつ双方向に行われるものであることが必要とされていたが、「同時かつ双方向に行われないもの」であっても、遠隔授業として認められる一定の条件が示

された。

(1) 場所的観点

授業を行う教室等については、授業を行う場所は教員のみで、生徒がいない場合、同一校舎内の複数の教室間で同時に行われる場合でも遠隔授業として認められる。

(2) 遠隔授業における指導

設問解答、添削指導、質疑応答、課題提出を電子メールやファックス、郵送等により、毎回の授業の実施に当たって併せ行うことが必要である。

(3) 生徒の意見の交換の機会

対応手段として、学校ホームページに掲示板を設けて生徒がこれに書き込めるようにしたり、生徒が自主的に集まり学習を行えるような学習施設を設けたりするなどが挙げられる。

遠隔授業

離れた場所にある教室を情報通信ネットワークで結んで行われる授業のことであり、パソコンやタブレットを使用してインターネットを介すことで、自宅にしながら遠隔で授業を行える形態である。オンライン授業は、インターネットを通じて行われる授業であるため、遠隔授業と同じ用語としてとらえることができる。

遠隔授業（オンライン授業）は、リアルタイムで授業を配信する「同時（リアル）配信型」、録画済の授業を配信する「オンデマンド型」、対面式授業とオンライン授業を組み合わせた「ブレンド型」、同じ授業を複数の方法で行う「ハイフレックス（hybrid-Flexible）型」の4つに区別する。

2. オンライン授業に関する論文等（現状の分析）

2020年3月から2023年2月の期間で遠隔授業（オンライン授業）に関する論文を調べた結果、医学教育学会では、論文を中心に16編あり、日本柔道整復接骨医学会では、学会発表のみ10編あり、そのうち4編は講演等、6編は会員発表であった。

全国柔道整復学校協会が実施した遠隔授業（オンライン授業）に関するアンケート調査において、学生と教員で共通していることは、「望んでいる授業形態は対面形式」であるが、「基礎分野についてはオンラインを望み」、「専門分野（実技）についてはオンラインを望まない」であった。理解度と満足度については、授業の主体である学生は「対面と変わらない」、教員は「対面より劣る」であった。学生と教員とで異なった結果になったのは、オンラインは対面より劣るという教員のバイアスがかかっていることが考えられる。

遠隔授業（オンライン授業）のProsとCons

双方向リアルタイム形式は、「通信不良の影響を受けやすい」ことが最大のデメリットである。

一方方向形式は、「授業後のフォローアップの時間」が必要であり、この時間がなければ授業として成立しないことがデメリットとなる。

双方向オンデマンド形式は、掲示板やメール等を利用して、学生からの質問の共有や対応においてはメリットであるが、教員の手間がかかることはデメリットとなる。

オンデマンド形式は、「いつでも何度でも繰り返し授業内容を確認できる」こと、リアルタイム形式は、「その場で解決できる」ことがメリットである。

3.アウトカム基盤型教育による質保証

柔整教育における最終到達目標は、国家試験合格となる。学校入学後は、学年が進むにつれて国家試験科目の教育が主となり、社会人基礎力や基本的業務などの教育は卒後に行われている現状である。

医療安全を担保する教育の質保証等の観点から、「学習成果（learning outcome）」を重視するアウトカム（学習成果）基盤型教育（outcome-based education（OBE））が導入されてきた。OBEのもとで、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッションポリシーの三つのポリシーが策定、運用されている。

柔整卒後教育において、業務遂行能力（クリニカルラダー）が定まらず、柔道整復師のコンピテンシーについても定まらなると、逆算して卒業時に修得して身につけておくべき能力が明確とならない。

卒前教育の目標は、ディプロマ・ポリシーにより達成され、基本的臨床能力に繋がることが重要となる。標準的臨床能力（≡コア・コンピテンシー）を明らかにし、標準的臨床能力を有する柔道整復師に達するまでの段階的な能力を逆算して、卒業時に必要な能力（コア・カリキュラム、ディプロマポリシー）を明確にする。コア・カリキュラムは、コンピテンシーから逆算される。

インストラクショナルデザイン

到達目標、評価方法、学習項目から構成され、これらの3要素が揃っていることが理想的である。例えば、学修項目が定められていなければ、「何を学ぶかわからない」ということになり、評価方法が定められていなければ、「目標に達したが評価できない」という問題が生じる。

ADDIEモデル

教育設計の基本ステップであり、「分析」、「設計」、「開発」、「実施」、「評価」の5つのプロセスからなる。到達目標と評価方法を決めて、随時、評価を行いながら改善することとなる。教育は常に変化しているものであるため、インストラクショナルデザインの3要素に関しても、ADDIEモデルのプロセスにより評価してアップデートしなければならない。

Millerのピラミッド

知識と能力を評価する概念であり、「単に知っている（KNOWS）」、「どう行うか知る（KNOWS HOW）」、「どう行うか見せる（SHOW HOW）」、「実践（DOES）」という4段階で表している。

医学・医療の知識（KNOWS）は、客観試験や論述試験で評価する。知識を使って治療

計画の立案ができる能力（KNOWS HOW）は、客観試験や論述試験、レポートで評価する。能力を行動で示すことができる（SHOW HOW）は、OSCEやシミュレーション試験で評価する。医療の実践（DOES）は、ポートフォリオ評価や観察評価で行う。

まとめ

オンライン授業で教育効果を高めるために

成績によって希望する授業形態が異なり、成績上位者は対面もしくは双方向を望む傾向にあり、成績下位者は、オンデマンドを望む傾向にある。これは、オンデマンドのメリットである「いつでも見られる」は、「今見ない」というように分析することもできる。このように、成績上位者と成績下位者を区別して分析することが必要となる。

基本的に、学生の理解度、満足度は教員の能力に依存するため、教員の教育力を高めるために組織的に取り組むことが必要となる。

学生のオンラインで学ぶ能力を身に付けさせる必要もある。

教員に求められる授業スキルとして、対面、オンラインにかかわらず、eラーニングのスキルが必要である。

KEYWORDS for TODAY

【柔道整復教育学】

治療のみならず、教育に関しても学術的、学問的な観点による分析が必要である。教育を「柔道整復教育学」と学問的にとらえ、「確証バイアス」をなくすことが大切である。

【やりっぱなし教育、場当たり教育、さようなら】

アウトカム基盤型教育で質保証を目指すこと。ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー、クリニカルラダーを策定し、ADDIEで改善し続ける。

【絶対に欠かせない教育スキル】

教員は、自らの教育スキルを高めることが重要である。経営者、事務関係者は、教員が教育スキルを高める機会と環境を学内で作ることも必要である。

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

令和５年度 定時総会議事録

１．開催日 令和５年６月１６日（金）１５：００～１５：３０

２．会場 浜松町コンベンションホール大ホールＢ
東京都港区浜松町二丁目３番１号日本生命浜松町クレアタワー５階
電話 ０３－６４３２－４０７５

３．定足数算定の基礎となる正会員数 ４５名

４．出席者

（１）理事（正会員） ７名

谷口 和彦	会長 明治東洋医学院専門学校	関口 正雄	副会長 東京メディカル・スポーツ専門学校
齊藤 秀樹	東京医療専門学校	奥田 久幸	日本医学柔整鍼灸専門学校
廣岡 聡	関西医療学園専門学校	田中 雅博	履正社国際医療スポーツ専門学校
大塚 正晴	四国医療専門学校		

（２）理事（非会員） １名

伊藤 譲	日本体育大学保健医療学部
------	--------------

（３）監事（正会員） ２名

米田 忠正	米田柔整専門学校	清水 尚道	森ノ宮医療学園専門学校
-------	----------	-------	-------------

（４）正会員 １２名

坂本 正憲	仙台赤門医療専門学校	岸野 雅方	福島医療専門学校
平澤 淳	大川学園医療福祉専門学校	八亀俊一郎	呉竹医療専門学校
永野 修	新宿医療専門学校	瀧 将仁	アルファ医療福祉専門学校
村上 哲二	呉竹鍼灸柔整専門学校	清水 洋二	中和医療専門学校
北野 吉廣	平成医療学園専門学校	津島 伸章	朝日医療大学校
水野 晋悟	河原医療福祉専門学校	鈴木 信司	専門学校沖縄統合医療学院

(5) 委任状提出正会員 22名

高山 訓正	北海道柔道整復専門学校	早坂 正利	北海道ハイテクノロジー専門学校
栗島 秀行	盛岡医療大学校	島谷 夕美	仙台接骨医療専門学校
中島 利郎	中央スポーツ医療専門学校	櫻井 康司	日本柔道整復専門学校
千葉 茂	日本工学院八王子専門学校	増田 哲也	日本健康医療専門学校
都築 稔	関東柔道整復専門学校	殿村 康一	東京医療福祉専門学校
森島 康之	専門学校浜松医療学院	竹本 雅信	名古屋医健スポーツ専門学校
竹本 雅信	京都医健専門学校	坂本 博	近畿医療専門学校
古谷 圭司	東洋医療専門学校	岡田 典世	関西健康科学専門学校
本廣 淳範	IGL医療福祉専門学校	藤瀬 武	福岡医療専門学校
古谷野 潔	福岡医健・スポーツ専門学校	大川 照明	福岡天神リハビリ専門学校
水嶋 章陽	九州医療スポーツ専門学校	門司 誠一	九州医療専門学校

5. 議 長 正会員 北野 吉廣（平成医療学園専門学校）

6. 議事録作成者 永田 昭彦（公益社団法人全国柔道整復学校協会事務局長）

7. 議事次第

審議事項

議案 令和4年度決算報告書案の承認の件

8. 会議の概要

(1) 開会

議事に先立ち、進行役を務める事務局長より、定時総会の開会宣言の後、本総会の正会員出席者は21名、欠席者は24名、ただし欠席者22名から委任状が提出され、定款第17条に基づく総正会員の議決権の過半数（23名）以上であり、本総会は適法に成立していると報告。

続いて、谷口会長が挨拶を行った。

(2) 議案の審議状況及び議決結果等

事務局長が、定款第15条に基づく議長の選出について総会に諮ったところ、司会者一任とされたことから、司会者は平成医療学園専門学校の北野吉廣正会員を指名、総会は異議なく賛成し、北野正会員も議長就任を承諾した。

続いて議長より、定款第18条第2項の規定に基づき、総会に出席した正会員より選出される議事録署名人2名の選出について本総会に諮ったところ、議長一任とされたことから、大川学園医療福祉専門学校の平澤 淳正会員と呉竹鍼灸柔整専門学

校の村上哲二正会員の両名を指名し、本総会は2名の議事録署名人を承認、両正会員も就任を承諾した。

審議事項

議案 令和4年度決算報告書案の承認の件

上記議案について、議長から事務局に対し説明を行うよう求め、事務局長は資料1に基づき、最初に審議対象外の「令和4年度事業報告」を関連事項として説明した後、「令和4年度決算報告書案」について説明。

引き続き議長は、監事に対し監査報告について発言を求め、米田忠正、清水尚道両監事が令和4年4月1日から令和5年3月31日までの事業年度の関係諸表を確認したところ、適正だったことを報告。

議長は、質疑に入ることを告げ、質問及び意見を求めたが発言が無いことから採決を行うことを告げ、その結果、出席正会員の過半数の賛成で原案どおり承認可決された。

議長は、議事に対する審議を終了した旨述べ、令和5年度定時総会の閉会を宣した。

本総会の議事経過の概要を記載、その内容を明確にするため、議長及び議事録署名人2名が記名押印する。

令和5年6月16日

議 長 北 野 吉 廣 印

議事録署名人 平 澤 淳 印

議事録署名人 村 上 哲 二 印

令和 4 年度事業報告書

自 令和 4 年 4 月 1 日
至 令和 5 年 3 月 3 1 日



公益社団法人 全国柔道整復学校協会

第1 会務報告

令和4年度 公益社団法人全国柔道整復学校協会役員の運営体制	
役 員	会長 谷口 和彦 副会長 関口 正雄 、 高山 雅行(～R4.12) 理事 高山 雅行(～R5.3) 、 齊藤 秀樹 、 奥田久幸(R5.3～) 廣岡 聡 、 田中 雅博 、 大麻 正晴 、 伊藤 譲 監事 米田 忠正 、 清水 尚道
顧 問	櫻井 康司 、 坂本 歩 、 武田 秀孝 、 碓井 貞成 、 坂本 正憲

委員(部)会名	担当理事	委員(部会)長・副委員(部会)長
常設委員会 教育支援委員会 教科書部会	齊藤 秀樹	部会長 三澤 圭吾(明治東洋医学院) 副部会長 西巻 英男(北海道柔道整復)
教員研修等部会	伊藤 譲	部会長 本澤 光則(日本工学院八王子) 副部会長 葉山 直史(森ノ宮医療学園)
専科教員認定講習部会	伊藤 譲	部会長 川口 央修(呉竹医療) 副部会長 北野 吉廣(平成医療学園)
柔道整復師国家試験模擬試験部会	齊藤 秀樹	部会長 杉山 直人(東京医療) 副部会長 秋津 知宏(明治東洋医学院) 副部会長 稲岡 隆輔(滋慶学園グループ)
広報・調査委員会	大麻 正晴	委員長 廣木 智(東京医療) 副委員長 鹿庭 祥平(四国医療)
柔道委員会	廣岡 聡	委員長 早川 幸秀(東京医療) 副委員長 湊谷 知幹(京都医健)
組織運営委員会	田中 雅博	委員長 藤井 義巳(明治東洋医学院) 副委員長 辻井 宏昭(履正社国際医療)

兼 職	公益財団法人柔道整復研修試験財団	評議員	谷口 和彦
	一般社団法人日本柔道接整復骨医学会	業務執行理事	関口 正雄
		副会長	坂本 歩

行事開催年月日	行 事 内 容 等
令和4年	
4月 1日 (金)	会員校入学式に会長名祝電(46校)
11日 (月)	教育支援委員会専科教員認定講習部会 第1回会議:学校協会等
15日 (金)	第1回理事会:学校協会等
19日 (火)	広報・調査委員会 第1回会議:学校協会等
24日 (日)	教育支援委員会教科書部会「柔道」教科書の教材撮影:講道館
26日 (火)	柔道委員会 第1回会議:学校協会
5月 8日 (日)	専科教員認定講習会受講試験:新宿医療専門学校、関西医療学園専門学校
10日 (火)	教育支援委員会専科教員認定講習部会 第2回会議:学校協会 専科教員認定講習会受講試験合否判定会議:学校協会
11日 (水)	専科教員認定講習会受講試験合格発表:学校協会HP
13日 (金)	会計監査(令和3年度):学校協会
18日 (水)	学校協会社団設立30周年記念事業準備委員会:学校協会
20日 (金)	第2回理事会:学校協会等
25日 (水)	教育支援委員会柔道整復師国家試験模擬試験部会 第1回会議:学校協会等
26日 (木)	柔道委員会 第2回会議:学校協会
6月 4日 (土)	専科教員認定講習会東日本会場開講式:新宿医療専門学校
11日 (土)	専科教員認定講習会西日本会場開講式:関西医療学園専門学校 臨床実習指導者講習会:九州医療スポーツ専門学校(～6月12日(日))
17日 (金)	第3回理事会:学校協会 第4回理事会:浜松町コンベンションホール 定時総会、会員協議会:浜松町コンベンションホール
21日 (火)	教育支援委員会教科書部会 第1回会議:学校協会
24日 (金)	第5回理事会:学校協会等
30日 (木)	柔道委員会 第3回会議:学校協会
7月 8日 (金)	学校協会社団設立30周年記念事業準備委員会:学校協会
12日 (火)	教育支援委員会教科書部会 柔道委員会との打合せ:キャンパスプラザ京都
15日 (金)	第6回理事会:学校協会等
19日 (火)	広報・調査委員会 第2回会議:学校協会等
28日 (木)	教育支援委員会教科書部会 (株)南江堂との打合せ:(株)南江堂
29日 (金)	助成金交付審査会:学校協会等

行事開催年月日	行 事 内 容 等
8月 2日 (火) 10日 (水) 26日 (金)	教育支援委員会教科書部会 柔道委員会との打合せ:学校協会 柔道委員会 第4回会議:学校協会 臨床実習指導者講習会:京都医健専門学校(～8月7日(日)) 第55回柔道大会:東京武道館 第7回理事会:学校協会等
9月 5日 (月) 16日 (金) 18日 (日) 27日 (火) 29日 (木) 30日 (金)	教育支援委員会専科教員認定講習部会 第3回会議:学校協会 第8回理事会:学校協会等 第64回教員研修会:名古屋東急ホテル(～9月19日(月・祝)) 臨床実習指導者講習会:日本工学院八王子専門学校(～9月19日(月・祝)) 教育支援委員会専科教員認定講習部会 第4回会議:学校協会 遠隔授業に向けての合同検討会:東洋療法学校協会 柔道委員会 第5回会議:学校協会
10月 6日 (木) 7日 (金) 13日 (木) 15日 (土) 18日 (火) 22日 (土) 28日 (金)	柔道整復師学校養成施設カリキュラム次期改訂に向けた検討会議:キャンパスプラザ京都 教育支援委員会教科書部会 講道館との打合せ:講道館 組織運営委員会 第1回会議:学校協会等 遠隔授業に向けての合同検討会:ZOOM使用によるオンライン会議 教育支援委員会教科書部会 第2回会議:学校協会 専科教員認定講習会東日本会場閉講式:新宿医療専門学校 広報・調査委員会 第3回会議:学校協会等 専科教員認定講習会西日本会場閉講式:関西医療学園専門学校 第9回理事会:学校協会等
11月 10日 (木) 11日 (金) 14日 (月) 17日 (木) 19日 (土) 27日 (日)	柔道整復師学校養成施設カリキュラム次期改訂に向けた検討会議:日本柔整会館 組織運営委員会 第2回会議:学校協会等 教育支援委員会専科教員認定講習部会 第5回会議:学校協会等 第10回理事会:ホテル日航高知旭ロイヤル(高知市) 臨床実習指導者講習会:東京医療専門学校(～11月20日(日)) 臨床実習指導者講習会:専門学校浜松医療学院(、12月4日(日))
12月 3日 (土) 6日 (火) 10日 (土) 11日 (日) 16日 (金) 20日 (火)	全国柔道整復学校協会統一模擬試験実施(～12月22日(木)) 遠隔授業に向けての合同検討会:ZOOM使用によるオンライン会議 教育支援委員会教科書部会「柔道」教科書の目次執筆依頼:名古屋医健スポーツ専門学校 臨床実習指導者講習会:東京メディカル・スポーツ専門学校(、12月18日(日)) 第11回理事会:学校協会 会員協議会:浜松町コンベンションホール 柔道整復師学校養成施設カリキュラム次期改訂に向けた検討会議:学校協会

行事開催年月日	行 事 内 容 等
令和5年	
1月 15日 (日)	臨床実習指導者講習会:京都医健専門学校(、1月22日(日))
16日 (月)	教育支援委員会専科教員認定講習部会 第6回会議:学校協会
17日 (火)	広報・調査委員会 第4回会議:学校協会等
20日 (金)	第12回理事会:学校協会等
24日 (火)	柔道整復師学校養成施設カリキュラム次期改訂に向けた検討会議:学校協会
2月 9日 (木)	教育支援委員会教科書部会 第1回会議:学校協会
16日 (木)	教育支援委員会教科書部会 第3回会議:学校協会
17日 (金)	第13回理事会:学校協会等
21日 (火)	柔道整復師学校養成施設カリキュラム次期改訂に向けた検討会議:キャンパスプラザ京都
22日 (水)	教育支援委員会教科書部会 柔道委員会との打合せ:京都医健専門学校
3月 1日 (水)	会員校卒業式に会長名祝電(46校)
5日 (日)	第31回柔道整復師国家試験施行
7日 (火)	教育支援委員会教科書部会 柔道委員会との打合せ:キャンパスプラザ京都
8日 (水)	第31回柔道整復師国家試験疑義問題検討会:学校協会
9日 (木)	第31回柔道整復師国家試験疑義問題に関する要望書提出:柔道整復研修試験財団
11日 (土)	臨床実習指導者講習会:東京医療福祉専門学校(～3月12日(日))
17日 (金)	第14回理事会:学校協会等
	臨時総会、会員協議会、研修会:浜松町コンベンションホール
19日 (日)	臨床実習指導者講習会:四国医療専門学校(、3月21日(火・祝))
24日 (金)	第31回柔道整復師国家試験合格発表
27日 (月)	柔道整復師学校養成施設カリキュラム次期改訂に向けた検討会議:学校協会

第2 会議等

(1) 総会

	開催日時・場所	議事内容等	出席状況
定時総会	令和4年6月17日(金) 14:30～15:15 浜松町コンベンションホール 東京都港区浜松町2-3-1 日本生命浜松町クレアタワー6階	(議案) 1.令和3年度決算報告書案の承認の件 2.役員の選任の件	理事8名 監事名 正会員10名 委任状26名
臨時総会	令和5年3月17日(金) 15:05～15:25 浜松町コンベンションホール他 東京都港区浜松町2-3-1 日本生命浜松町クレアタワー6階	(議案) 1.役員選任の件	理事6名 監事2名(内Zoom1名) 正会員17名(内Zoom8名) 委任状20名

(2) 会員協議会

	開催日時・場所	内 容
第1回	令和4年6月17日(金) 定時総会終了後	1.報告事項 1)各委員会 2)関連団体等
第2回	令和4年12月15日(金) 15:00～16:30 浜松町コンベンションホール	1.報告事項 1)柔道整復師国家試験問題漏洩の件 2)各種会議 3)関連団体等
第3回	令和5年3月17日(金) 臨時総会終了後	1.報告事項 1)各委員会 2)関連団体等

(3) 理事会

	開催日時・場所	議事内容等	出席状況
第1回理事会	令和4年4月15日(金) 14:00～16:00 学校協会(Zoom併用) 東京都港区浜松町1-6-2	(議案) 1.専科教員認定講習会の運営の件 2.委員会運営の件 3.柔道整復師国家試験模擬試験運営の件 (報告事項) 1.代表理事の職務執行報告及び行事予定 2.各委員会 3.関連団体等 4.その他	理事 7名 監事 2名

第2回理事会	令和4年5月20日(金) 14:00～16:10 学校協会(Zoom併用) 東京都港区浜松町1-6-2	(議案) 1.令和3年度事業報告書の承認の件 2.令和3年度決算報告書案の件 3.定時総会の開催について 4.委員会委員の選任の件 5.令和4年度事業計画の変更承認の件 (報告事項) 1.代表理事の職務執行報告及び行事予定 2.各委員会 3.関連団体等 4.その他	理事 8名 監事 2名
第3回理事会	令和4年6月17日(金) 12:30～13:30 学校協会 東京都港区浜松町1-6-2	(議案) 1.定時総会の運営の件 2.日本柔道整復接骨医学会学術大会パネリスト派遣の件 (報告事項) 1.代表理事の職務執行報告及び行事予定 2.その他	理事 8名 監事 2名
第4回理事会	令和4年6月17日(金) 15:30～15:50 浜松町コンベンションホール 東京都港区浜松町2-3-1 日本生命浜松町クレアタワー6階	(議案) 1.会長及び副会長の選任の件 2.各委員会担当理事の選任の件	理事 8名 監事 2名
第5回理事会	令和4年6月24日(金) 学校協会(Zoom) 東京都港区浜松町1-6-2 (電子メールによる協議)	(議案) 1.顧問の委嘱の件	理事 8名 監事 2名
第6回理事会	令和4年7月15日(金) 14:00～16:00 学校協会(Zoom併用) 東京都港区浜松町1-6-2	(議案) 1.正会員入会申込に伴う入会事前審査委員会の設置の件 2.柔道大会規程の改正の件 (報告事項) 1.代表理事の職務執行報告及び行事予定 2.各委員会 3.関連団体等 4.その他	理事 8名 監事 2名

第7回理事会	令和4年8月26日(金) 14:00～16:10 学校協会(Zoom併用) 東京都港区浜松町1-6-2	(議案) 1.指定規則等の改正に関するQ&Aの一部改正の件 2.カリキュラム検討委員会設置の件 3.正会員入会促進策の件 4.柔道整復師国家試験模擬試験事業化の件(報告事項) 1.代表理事の職務執行報告及び行事予定 2.各委員会 3.関連団体 4.その他	理事 8名 監事 1名
第8回理事会	令和4年9月16日(金) 13:55～15:40 学校協会(Zoom併用) 東京都港区浜松町1-6-2	(議案) 1.正会員入会促進策の件 2.柔道整復師国家試験模擬試験事業化の件 3.遠隔授業の件(報告事項) 1.代表理事の職務執行報告及び行事予定 2.各委員会 3.関連団体 4.その他	理事 8名 監事 2名
第9回理事会	令和4年10月28日(金) 13:50～16:25 学校協会(Zoom併用) 東京都港区浜松町1-6-2	(議案) 1.今年度(下半期)理事会等開催日程の件 2.特定資産運用の件 3.鍼灸柔整新聞への広告掲載の件(報告事項) 1.代表理事の職務執行報告及び行事予定 2.各委員会 3.関連団体 4.その他	理事 8名 監事 2名
第10回理事会	令和4年11月17日(木) 15:00～17:40 ホテル日航高知旭ロイヤル 高知県高知市九反田9-15	(議案) 1.委員会(部会)再編成の件 2.会員協議会開催の件 3.事務局長人事等の件 4.柔道整復研修試験財団への意見書提出の件(報告事項) 1.代表理事の職務執行報告及び行事予定 2.各委員会 3.関連団体 4.その他	理事 8名 監事 1名

第11回理事会	令和4年12月16日(金) 12:27～14:49 学校協会 東京都港区浜松町1-6-2	(議案) 1.学校協会監修教科書(電子版)2023年版の件 2.会員校の第二次評価受審費用補助の件 3.専科教員認定講習会実施規程等改正の件 4.令和5年度教員研修会プログラムの件 5.柔道整復モデル・コア・カリキュラムの件 6.委員会委員人事の件 7.事務局長人事の件 8.その他 (報告事項) 1.代表理事の職務執行報告及び行事予定 2.各委員会 3.関連団体 4.その他	理事 8名 監事 2名
第12回理事会	令和5年1月20日(金) 14:15～16:30 学校協会(Zoom併用) 東京都港区浜松町1-6-2	(議案) 1.会員校の第二次評価受審費用補助の件 2.委員会委員人事の件 3.入会事前審査委員会(仙台医健・スポーツ専門学校)委員人事の件 4.国家試験問題漏洩に関する学校協会对応の件 5.令和5年度専科教員認定講習会開催計画の件 6.カリキュラム次期改訂検討会議「柔道整復モデル・コア・カリキュラム」作業部会設置の件 7.その他 (報告事項) 1.代表理事の職務執行報告及び行事予定 2.各委員会 3.関連団体 4.その他	理事 6名 監事 2名
第13回理事会	令和5年2月17日(金) 14:00～16:13 学校協会(Zoom併用) 東京都港区浜松町1-6-2	(議案) 1.国家試験問題漏洩に関する学校協会对応の件 2.役員人事の件 3.臨時総会開催の件 4.事前審査委員会による入会申込書類審査の件 5.令和5年度事業計画、収支予算の件 6.諸規程改正の件 7.カリキュラム次期改訂検討会議小部会設置の件 8.その他 (報告事項) 1.代表理事の職務執行報告及び行事予定 2.各委員会 3.関連団体 4.その他	理事 7名 監事 2名

第 14 回 理 事 会	令和5年3月17日(金) 12:35～14:28 学校協会(Zoom併用) 東京都港区浜松町1-6-2	(議案) 1.令和5年度事業計画、収支予算の件 2.非加盟校への入会説明訪問の件 3.事前審査委員会による現地訪問調査の件 4.国家試験問題漏洩に関する学校協会对応の件 5.臨時総会の運営の件 6.令和5年度理事会等開催日程の件 7.委員会委員人事の件 (報告事項) 1.代表理事の職務執行報告及び行事予定 2.第31回柔道整復師国家試験出題問題に関する意見書の件 3.その他	理事 7名 監事 2名
-----------------------------	--	---	----------------

(4) 会計監査

高山副会長、米田、清水両監事及び株式会社アダムズが立ち合いの上、令和4年5月13日(金)に令和3年度会計監査を実施。

(5) 第31回柔道整復師国家試験疑義問題検討会

開催日時・場所	検討事項等	出席状況
令和5年3月8日(水) 11:00～13:00 学校協会 東京都港区浜松町1-6-2	1.第31回柔道整復師国家試験における疑義問題に関する検討	会長他4名

(6) 柔道整復師学校養成施設カリキュラム次期改訂に向けた検討会議

1. 設置趣旨

平成28年10月31日の厚生労働省柔道整復師養成施設カリキュラム改善検討会「報告書」では、今後の課題として、高齢化の進展等に伴い柔道整復師に求められる役割も変化していくことが考えられることから、新カリキュラムの適用から5年を目処として、新たな改正の必要性についての検討を行うことが望まれるとの提言がなされた。

今年度は、本提言から5年が経過し新たな改正の必要性についての検討を行う時期であることから、現行カリキュラムの問題点や課題に対し、全国柔道整復学校協会と日本柔道整復師会は協同して検討を行うため本検討会議を設置、そこでの検討結果を基に要望事項を整理・発信し、同省による次期カリキュラム検討促進を図ることとした。

2. 検討課題

「柔道整復師養成施設指定規則」及び「柔道整復師養成施設指導ガイドライン」の見直しについて

- (1) 前回改正時(平成29年4月1日)以降の問題点について
- (2) 学習方法について
- (3) 第三者評価について
- (4) その他

3. メンバー(※敬称略、五十音順)

- 伊藤 譲 (公社)全国柔道整復学校協会理事 教育支援担当、日本体育大学保健医療学部教授
 齊藤 秀樹 (公社)全国柔道整復学校協会理事 教育支援担当、東京医療専門学校校長
 ◎谷口 和彦 (公社)全国柔道整復学校協会会長、(学法)明治東洋医学院理事長
 徳山 健司 (公社)日本柔道整復師会理事、(公社)大阪府柔道整復師会会長
 ○長尾 淳彦 (公社)日本柔道整復師会副会長 国際部長、(公社)京都府柔道整復師会会長
 森川 伸治 (公社)日本柔道整復師会理事 学術教育部長、(公社)愛知県柔道整復師会会長
 [計6名]◎:座長、○:副座長

4. その他

カリキュラム次期改訂に向けた検討作業部会

- 齊藤 秀樹 (公社)全国柔道整復学校協会理事 教育支援担当
 北野 吉廣 平成医療学園専門学校校長
 秋津 知宏 明治東洋医学院専門学校専任教員
 本多 修二 呉竹医療専門学校専任教員[計4名]

柔道整復学教育モデル・コア・カリキュラム策定作業部会 メンバー

- 伊藤 譲 (公社)全国柔道整復学校協会理事 教育支援担当、日本体育大学保健医療学部教授
 大橋 淳 常葉大学健康プロデュース学部健康柔道整復学科教授
 小山 浩司 有明医療大学保健医療学部柔道整復学科准教授
 黒澤 紀雄 東京メディカル・スポーツ専門学校柔道整復師科学科長
 祁答院 隼人 日本体育大学保健医療学部整復医療学科助手
 神内 伸晃 明治東洋医学院専門学校柔整学科専任教員[計6名]

開催日時・場所	検討事項等	出席状況
令和4年10月6日(木) 14:00～15:30 キャンパスプラザ京都 京都府京都市下京区東塩小路町939	1.今後の審議の進め方について	学校協会3名 日本柔道整復師会 3名
令和4年11月10日(木) 14:30～16:00 日本柔整会館 東京都台東区上野公園16-9	1.次期カリキュラム改訂に向けた事案検討	学校協会3名 日本柔道整復師会 3名
令和4年12月20日(火) 14:00～16:00 学校協会 東京都港区浜松町1-6-2	1.次期カリキュラム改訂に向けた事案検討	学校協会3名 日本柔道整復師会 3名

令和5年1月24日(火) 14:00～16:00 学校協会 東京都港区浜松町1-6-2	1.次期カリキュラム改訂に向けた事案検討	学校協会3名 日本柔道整復師会 3名
令和5年2月21日(火) 14:05～15:45 キャンパスプラザ京都 京都府京都市下京区東塩小路町939	1.次期カリキュラム改訂に向けた事案検討	学校協会3名 日本柔道整復師会 3名
令和5年3月27日(月) 14:00～15:30 学校協会 東京都港区浜松町1-6-2	1.次期カリキュラム改訂に向けた事案検討	学校協会3名 日本柔道整復師会 2名
上記会議開催の他、以下の作業部会を設置、適宜開催・検討を行った。 カリキュラム次期改訂に向けた検討作業部会:齊藤理事担当 柔道整復学教育モデル・コア・カリキュラム策定作業部会:伊藤理事担当		

(7)遠隔授業に向けての合同検討会

厚生労働省が遠隔授業実施を認めていく方向を示したことから、このカリキュラムへの影響等を検討する場を東洋療法学校協会と合同で設置し、同省医政局医事課に対し意見等の申し入れを行った。

3. メンバー(※敬称略)

学校協会:谷口 和彦、齊藤 秀樹、伊藤 譲、永田 昭彦

東洋療法学校協会:坂本 歩(座長)、清水 尚道、武田 大輔、新井 恒紀、秋山 雅彦、松下 美穂

[計10名]

開催日時・場所	検討事項等	出席状況
令和4年9月29日(木) 10:00～11:20 東洋療法学校協会 東京都港区浜松町1-12-9	1.今までの経緯 2.今後の方針	学校協会3名 東洋療法学校協会 5名
令和4年10月13日(木) 10:00～10:55 ZOOM使用によるオンライン会議	1.厚生労働省からの見解 2.遠隔授業に対しての事例についての検討	学校協会3名 東洋療法学校協会 6名
令和4年12月6日(火) 10:00～12:00 ZOOM使用によるオンライン会議	1.事例・認定規則および指定規則の疑問点に関する検討	学校協会3名 東洋療法学校協会 6名

第3 委員会

(1)教育支援委員会教科書部会

開催日時・場所	検討事項等	出席状況
令和5年2月9日(木) 14:00～15:30 学校協会(Zoom併用) 東京都港区浜松町1-6-2	1.柔道教科書の進捗状況について 2.その他	会長、理事1名 他10名
上記部会開催の他 「柔道」教科書作成のため柔道委員会等関係者との打合せ等を実施。 ・4月24日(日) 「柔道」教科書の教材撮影:講道館 ・7月12日(火) 柔道委員会との打合せ:キャンパスプラザ京都 ・7月28日(木) ㈱南江堂との打合せ:㈱南江堂 ・8月2日(火) 柔道委員会との打合せ:学校協会 ・10月7日(金) 講道館との打合せ:講道館 ・12月10日(土) 「柔道」教科書の目次執筆依頼:名古屋医健スポーツ専門学校 ・2月22日(水) 柔道委員会との打合せ:京都医健専門学校 ・3月7日(火) 柔道委員会との打合せ:キャンパスプラザ京都		

(2)教育支援委員会教員研修等部会

開催日時・場所	検討事項等	出席状況
令和4年6月21日(火) 10:00～12:00 13:00～14:30 学校協会(Zoom併用) 東京都港区浜松町1-6-2	1.令和3年度助成事業の実績報告について 2.令和4年度助成事業の交付申請について 3.第64回教員研修会(名古屋会場)について 4.第65回教員研修会(北九州会場)について 5.教員研修会の開催方法について	理事1名 他7名
令和4年10月13日(木) 14:00～16:00 学校協会(Zoom併用) 東京都港区浜松町1-6-2	1.第64回教員研修会(名古屋会場)報告について 2.教員研修会新メインテーマについて 3.第65回教員研修会(北九州)について 4.第66回教員研修会(東京会場)について 5.その他	理事2名 他8名
令和5年2月16日(木) 14:00～16:00 学校協会(Zoom併用) 東京都港区浜松町1-6-2	1.第65回教員研修会(北九州会場)について 2.第66回教員研修会(東京会場)について 3.助成事業予算額の減額について 4.その他	理事2名 他8名
上記部会開催の他 学校運営改善等助成事業助成金に係る交付審査会を開催した。 1.日 時 令和4年7月29日(金)12:45～13:45 2.場 所 学校協会(Zoom併用) 3.出席者 関口委員長他5名		

(3)教育支援委員会専科教員認定講習部会

開催日時・場所	検討事項等	出席状況
令和4年4月11日(月) 14:00～15:30 学校協会(Zoom併用) 東京都港区浜松町1-6-2	1.受講試験問題の策定について 2.その他	委員3名
令和4年5月10日(火) 14:00～16:20 学校協会 東京都港区浜松町1-6-2	1.受講試験の採点について 2.その他	副会長1名 理事1名 他3名
令和4年9月5日(月) 14:00～16:00 学校協会 東京都港区浜松町1-6-2	1.東京会場の修了試験問題および追再試験問題について 2.大阪会場の修了試験問題および追再試験問題について	委員3名
令和4年9月27日(火) 13:00～14:15 学校協会 東京都港区浜松町1-6-2	1.東京会場および大阪会場の修了試験採点について 2.その他	副会長1名 理事2名 他2名
令和4年11月14日(月) 14:00～15:00 学校協会(Zoom併用) 東京都港区浜松町1-6-2	1.次年度担当校の確認について 2.規約の改正について 3.試験委員会・運営委員会のスケジュールについて 4.その他	理事2名 他8名
令和5年1月16日(月) 14:30～15:00 学校協会 東京都港区浜松町1-6-2	1.受講試験問題作成方法について 2.受講試験問題割り振りについて 3.次年度の委員会の日程について 4.その他	理事1名 他4名

(4)教育支援委員会柔道整復師国家試験模擬試験部会

開催日時・場所	検討事項等	出席状況
令和4年5月25日(水) 14:00～15:30 学校協会(Zoom併用) 東京都港区浜松町1-6-2	1.令和3年度実施報告 2.令和4年度実施計画の検討 3.その他	会長、理事1名 他9名

(5) 広報・調査委員会

開催日時・場所	検討事項等	出席状況
令和4年4月19日(金) 14:00～15:45 学校協会(Zoom併用) 東京都港区浜松町1-6-2	1. 広報業務について 2. 調査業務について 3. その他	理事1名 他9名
令和4年7月19日(火) 14:00～15:45 学校協会(Zoom併用) 東京都港区浜松町1-6-2	1. 前回委員会議事録の確認 2. 調査業務について 3. 調査業務について 4. その他	理事1名 他9名
令和4年10月18日(火) 14:00～16:00 学校協会(Zoom併用) 東京都港区浜松町1-6-2	1. 前回委員会議事録の確認 2. 調査業務について 3. 調査業務について 4. その他	理事1名 他9名
令和5年1月17日(火) 14:00～15:30 学校協会(Zoom併用) 東京都港区浜松町1-6-2	1. 前回委員会議事録の確認 2. 調査業務について 3. 調査業務について 4. その他	理事1名 他8名

(6) 柔道委員会

開催日時・場所	検討事項等	出席状況
令和4年4月26日(火) 14:00～16:00 学校協会 東京都港区浜松町1-6-2	1. 大会形式について 2. 大会係員分担について 3. その他	会長、理事1名 他6名
令和4年5月26日(木) 14:00～16:00 学校協会 東京都港区浜松町1-6-2	1. 大会準備について 2. 大会運営について 3. その他	会長、理事1名 他6名
令和4年6月30日(木) 14:00～16:00 学校協会 東京都港区浜松町1-6-2	1. 組合せ抽選 2. 大会準備について 3. 大会運営について 4. その他	会長、理事2名 他6名
令和4年8月2日(火) 14:00～16:00 学校協会 東京都港区浜松町1-6-2	1. 大会準備について 2. 大会運営について 3. その他	理事1名 他6名
令和4年9月30日(金) 14:00～16:00 学校協会 東京都港区浜松町1-6-2	1. 柔道大会反省自校 2. 今後の検討課題について 3. 次年度計画について 4. その他	理事1名 他5名

(7)組織運営委員会

開催日時・場所	検討事項等	出席状況
令和4年10月7日(金) 13:20～14:45 学校協会(Zoom併用) 東京都港区浜松町1-6-2	1.非会員校への入会アプローチ、具体的施策について 2.会員校名簿の作成について 3.研修会について 4.その他	理事1名 他7名
令和4年11月11日(金) 13:30～15:00 学校協会(Zoom併用) 東京都港区浜松町1-6-2	1.非会員校への入会意識調査アンケートについて 2.その他	理事1名 他7名

(8)学校協会社団設立30周年記念事業準備委員会(特別委員会)

開催日時・場所	検討事項等	出席状況
令和4年5月18日(水) 13:30～15:30 学校協会 東京都港区浜松町1-6-2	1.制作物進捗状況について 2.配布物、進行シナリオ、職務分担について 3.今後の情報共有について 4.その他	副会長1名 理事1名 他7名
令和4年7月8日(金) 13:30～15:30 学校協会 東京都港区浜松町1-6-2	1.最終確認について 2.その他	副会長1名 理事1名 他8名
上記部会開催の他 社団設立30周年記念 特別講演会・式典及び祝賀会を開催した。 1.日 時 令和4年7月28日(金)15:00～19:00 2.場 所 パレスホテル 3.出席者 105名		

I 公益事業

1. 「柔道整復師専科教員認定講習会を実施し、柔道整復師の知識の普及啓発と技術の向上に寄与する事業」

○ 専科教員認定講習会

専科教員認定講習会は、柔道整復師学校養成施設指定規則(昭和47年文部省・厚生省令第2号)第2条第6号及び別表第2の規定に基づく厚生労働大臣指定の講習会であり、受講者は一定の教科について同講習会を修了した者には教員資格が与えられる。

平成14年度には、専科教員認定講習会の抜本的改正を施行して、受講試験及び修了試験等を実施することとし、更なる教員の資質の向上と計画性のある養成を図り今日に至っている。

その後、専科教員認定講習会のカリキュラムに係る、

- ・柔道整復師養成施設指定規則ならびに国家試験出題基準と合致していない。
- ・一般的な教育実習と専科教員認定講習会のカリキュラムの教育実習との実施方法にも乖離がある。
- ・今回のカリキュラム改定では履修時間数は上限(看護師を参考)と考えられるが、その時間内で最大4単位(PTの8単位を参考)までの臨床実習が組み込まれる可能性はある。
- ・コロナ禍の終息に見通しが立たない中で、対面形式の講義は実施が困難な可能性も鑑みて、専科教員認定講習会の実施にもWebなどを活用した方式や、グループワークの実施なども検討しておく必要がある。

等の問題点を解消するため、教育支援委員会専科教員認定講習部会でカリキュラム改正案を協議・構築し、理事会の議を経て令和3年度の講習会から実施することとなった。

令和4年度は、東日本会場(東京)及び西日本会場(大阪)の2か所で開催した。その実施概要は次のとおりである。

令和4年度専科教員認定講習会実施概要

区分	東日本会場(東京)	西日本会場(大阪)
1) 期間	自 令和4年 6月 4日(土) 至 令和4年10月15日(土)	自 令和4年 6月11日(土) 至 令和4年10月22日(土)
2) 時間	6月4日 14:00～20:00 土曜日 13:30～20:00 日曜日・祝祭日 9:30～16:40	6月8日 14:00～20:00 土曜日 13:30～20:00 日曜日・祝祭日 9:00～16:10
3) 主幹校	新宿医療専門学校 (協力校) 東京柔道整復専門学校 日本医学柔整鍼灸専門学校	関西医療学園専門学校 (協力校) 森ノ宮医療学園専門学校 平成医療学園専門学校
4) 会場	新宿医療専門学校	関西医療学園専門学校
5) 開講式	令和4年 6月 4日(土) 新宿医療専門学校	令和4年 6月11日(土) 関西医療学園専門学校
6) 受講者	21名	32名

区分	東日本会場(東京)	西日本会場(大阪)
7)修了者	19名	29名
8)閉講式	令和4年10月15日(土) 新宿医療専門学校	令和4年10月22日(土) 関西医療学園専門学校

2. 「研修会の実施を通じて柔道整復に関する知識の普及啓発と技術の向上に寄与する事業」

○ 教員研修会(第64回)

会員校の教職員及び教員資格所有者を対象に研究発表、シンポジウムなどを行うことにより相互研鑽及び資質の向上を図ることを目的として、毎年、教員研修会を開催している。

(1) 日 時 令和4年9月18日(日)、19日(月・祝)

(2) 会 場 名古屋東急ホテル

(3) 主 催 公益社団法人 全国柔道整復学校協会

(4) 後 援 厚生労働省

(5) 協 賛 公益財団法人 柔道整復研修試験財団
公益社団法人 日本柔道整復師会
一般社団法人 日本柔道整復接骨医学会
一般社団法人 柔道整復教育評価機構
公益社団法人 愛知県柔道整復師会

(6) 主幹校 名古屋医健スポーツ専門学校

(7) 受講者 283名

(8) 研修会

1日目

○講演1 『柔道整復師が知っておきたい柔道の外傷』
講演者 紙谷 武 (東海学園大学スポーツ健康科学部教授、一般社団法人日本柔道整復接骨医学会副会長、全日本柔道連盟医科学副委員長、日本スポーツ協会公認スポーツドクター、米田病院非常勤医師、北京、ロンドン、リオデジャネイロ、東京オリンピックチームドクター)

座 長 國本 丙基(米田病院リハビリテーション科病院外来チーフ)

○分科会

第1テーマ 『国家試験受験・合格に向けて』

講演者 稲岡 隆輔(滋慶教育科学研究所国家試験対策センターセンター長)

座 長 加藤 雄大(名古屋医健スポーツ専門学校柔道整復科主任)

第2テーマ 『電子版 教科書の活用方法』

講演者 三澤 圭吾(明治東洋医学院専門学校校長)

座 長 齊藤 秀樹(東京医療専門学校校長)

第3テーマ 『柔道整復師養成施設における柔道指導シンポジウム』

～ 指導方針と怪我させない指導 ～

講演者 二宮和弘(九州・福岡県柔道協会理事長)、廣岡 聡(柔道担当理事)、早川幸秀(柔道委員長)、湊谷知幹(柔道副委員長)、藤原清治(関西医療学園専門学校)、麓康次郎(東京柔道整復専門学校)、打味裕子(京都医健専門学校)

座 長 米女 博司(名古屋医健スポーツ専門学校副校長・柔道整復科学科長)

○ポスターセッション発表内容紹介

- ・ 様々な視点から構成する動画教材の作成と教育効果の検討(明治東洋医学院専門学校)
- ・ デイサービス利用者における科学的介護情報システム(LIFE)を活用した調査研究(履正社医療スポーツ専門学校専門学校)
- ・ 解剖学における先端技術を活用した取組:VR教材の開発(四国医療専門学校)
- ・ カラーDopplerを用いた不顕性骨折の評価法の検討(常葉大学)
- ・ 潜在性トリガーポイントに対する手技療法が筋に与える影響(明治国際医療大学)
- ・ 超音波診断装置を用いた腰痛保持者と健常者の多裂筋の評価(宝塚医療大学)
- ・ 柔道整復師が目指す健康な町づくり。歩こうたづウォーキングマップ作成の試み(四国医療専門学校)

2日目

○講演2 『専門学校の指導者に求められるコンピテンシーとは』

～データマイニングによる学生の課題と傾向～

講演者 鈴森 剛志(医療法人社団慶生会滋慶トータルサポートセンターセンター長)

座 長

○講演3 『骨折に対するX線画像と超音波画像の関係』

講演者 森 倫範(横浜医療専門学校)

座 長 片桐 幸秀(米田柔整専門学校校長補佐)

○ 柔道整復師臨床実習指導者講習会

臨床実習指導者の資質の向上及び臨床実習施設における適切な指導体制の確保を目的に、「柔道整復師養成施設臨床実習指導者講習会開催指針」(平成29年3月31日付け医政発0331第56号)に則った内容により講習会を開催した。

開催日時・場所	内 容
令和4年6月11日(土)、6月12日(日) 開催主管:九州医療スポーツ専門学校 福岡県北九州市小倉北区馬借1丁目1-2	講習時間16時間5分、講習実施担当者8名により開催、受講修了者22名に修了証書を交付。
令和4年8月6日(土)、8月7日(日) 開催主管:京都医健専門学校 京都府京都市中京区衣棚町51-2	講習時間16時間、講習実施担当者9名により開催、受講修了者27名に修了証書を交付。
令和4年9月18日(日)、9月19日(月・祝) 開催主管:日本工学院八王子専門学校 東京都八王子市片倉町1404-1	講習時間16時間、講習実施担当者6名により開催、受講修了者30名に修了証書を交付。
令和4年11月19日(土)、11月20日(日) 開催主管:東京医療専門学校 東京都渋谷区代々木1-55学園ビル	講習時間16時間10分、講習実施担当者9名により開催、受講修了者34名に修了証書を交付。
令和4年11月27日(日)、12月4日(日) 開催主管:専門学校浜松医療学院 静岡県浜松市浜北区貴布祢232-3	講習時間16時間、講習実施担当者7名により開催、受講修了者19名に修了証書を交付。
令和4年12月11日(日)、12月18日(日) 開催主管:東京メディカル・スポーツ専門学校 東京都江戸川区西葛西3-1-16	講習時間16時間10分、講習実施担当者延べ8名により開催、受講修了者43名に修了証書を交付。
令和5年1月15日(日)、1月22日(日) 開催主管:京都医健専門学校 京都府京都市中京区衣棚町51-2	講習時間16時間、講習実施担当者11名により開催、受講修了者21名に修了証書を交付。
令和5年3月11日(土)、3月12日(日) 開催主管:東京医療福祉専門学校 東京都中央区八丁堀1-11-11	講習時間16時間、講習実施担当者7名により開催、受講修了者25名に修了証書を交付。
令和5年3月19日(日)、3月21日(火・祝) 開催主管:四国医療専門学校 香川県宇多津町浜五番丁62-1	講習時間16時間、講習実施担当者延べ8名により開催、受講修了者28名に修了証書を交付。

3. 「教員研修会の発表者に対し研究助成を行うことを通じて知識の普及啓発と技術の向上に寄与する事業」

○ 学校運営改善等助成事業

学校運営改善等助成事業助成金交付審査会を経て、令和4年8月9日付で下記のとおり研究助成金の交付を行った。

また、令和3年度学校運営改善等助成事業助成金による研究紀要をホームページに掲載した。

(1) 交付決定状況(総括)

①交付申請校		10校	③交付申請額(B)	4, 673千円
内 訳	会員校	4校	④交付決定額(C)	2, 291千円
	非会員校	6校	⑤差引予算残額(A-C)	2, 709千円
②助成予算総額(A)		5, 000千円 最高1校当たり 500千円限度		

(2) 交付決定額一覧

No.	学 校 名	助成金の種類(研究分野)	決定額
1	明治東洋医学院専門学校	柔道整復師の職域に関する分野	499千円
2	平成医療学園専門学校	柔道整復師の職域に関する分野	480千円
3	四国医療専門学校	柔道整復師の教育に関する分野	493千円
4	明治国際医療大学	柔道整復師の職域に関する分野	423千円
5	宝塚医療大学	柔道整復師の職域に関する分野	396千円
合計(会員校3校、非会員校2校)			2, 291千円

4. 「柔道大会の開催を通じて柔道整復に関する知識の普及啓発と技術の向上に寄与する事業」

○ 柔道大会(第55回)

会員校相互の融和と協調を図るため、在校生による演武並びに各学校対抗試合を開催している。

令和4年度は新型コロナウイルス感染対策に十分に配慮し、3年ぶりに大会を開催した。

※令和2年度、3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止等の観点から開催中止

(1) 日 時 令和4年8月10日(水) 9:15開始

(2) 会 場 東京武道館

(3) 主 催 公益社団法人全国柔道整復学校協会

(4) 後 援 公益財団法人全日本柔道連盟 公益社団法人日本柔道整復師会
 公益財団法人東京都柔道連盟 公益社団法人東京都柔道整復師会
 公益財団法人柔道整復研修試験財団 一般社団法人日本柔道整復接骨医学会
 一般社団法人柔道整復教育評価機構

(5) 参加校 男子27校 女子14校

(6) 表 彰

			団 体 表 彰	個 人 表 彰	
			学 校 名	最優秀選手	優秀選手
男子	五人制	優 勝	米田柔整専門学校	下田 英樹	中島 臣哉
		準優勝	東京柔道整復専門学校		和納 匠汰
		3 位	スポーツ健康医療専門学校		江口 飛龍
		3 位	新潟柔整専門学校		前田 宏貴
	三人制	優 勝	福岡医療専門学校	白波 大喜	松永 昂士
		準優勝	育英メディカル専門学校		小山 寛大
		3 位	日本総合医療専門学校		高桑 虎汰朗
		3 位	福岡医健・スポーツ専門学校		大林 辰徳
女子	三人制	優 勝	関西健康科学専門学校	藤村 真優	藤城 恵麻
		準優勝	東京柔道整復専門学校		松尾 秋彩葉
		3 位	東京メディカル・スポーツ専門学校		須賀 萌美
		3 位	明治東洋医学院専門学校		山田 ゆめか

最優秀選手は優勝校から1名。優秀選手は優勝校、準優勝校、3位校より各1名。

形演武表彰

学 校 名	氏 名	
呉竹医療専門学校	小倉 直輝	高野 智靖
盛岡看護医療大学校	新坂 尚史	佐藤 史崇
東京メディカル・スポーツ専門学校	榎倉 こずえ	小林 穂美
日本工学院八王子専門学校	加藤 愛菜	笹倉 千聖
日本柔道整復専門学校	日浦 心太郎	高野 来夢
日本総合医療専門学校	小島 絢乃	高橋 流音
米田柔整専門学校	篠原 由一	井上 龍太
関西健康科学専門学校	前田 玲良	藤城 恵麻

5. 「柔道整復に関する広報活動を通じて柔道整復の普及啓発を目的とする事業」

○ ホームページの維持管理

学校協会の活動等をわかりやすく伝えるため、ホームページの維持管理(スマートフォン対応及びセキュリティ対策(SSL)等)に努めると共に、協会に関する最新情報(概要、柔道整復師学校養成施設倫理綱領、定款、役員名簿、予算及び決算、会報)を掲載した。

ニュースとして、新型コロナウイルス感染症拡大防止等に関する行政庁からの各種通達、入学者の構成に関するアンケート調査結果報告及び臨床実習指導者講習会開催情報を掲載した。

お知らせとして、専科教員認定講習会、学校運営改善等助成事業、教員研修会及び国家試験模擬試験の各開催案内を掲載した。

令和3年度学校運営改善等助成事業助成金による研究紀要を掲載した。

○ リーフレット等の作成・配布

柔道整復師養成学校への就学促進を目的とした学校協会リーフレット「柔道整復師の世界」を作成し、ホームページで公表。柔道整復師養成学校への就学の促進に寄与した。

各会員校から卒業10年までの学科を代表する卒業生で、現在の仕事、そこへのキャリア形成ステップ、時々の選択と意思を語ってもらう「卒業生のキャリア」を作成し、ホームページで公表した。

「専科教員認定講習会」受講啓発用のPRポスターを作成し、会員校・非会員校(大学含む)及び都道府県柔道整復師会に送付した。

6. 「調査研究活動の実施を通じて柔道整復に関する実態を把握し、学校教育の向上に寄与する事業」

○ 柔道整復師養成施設の入学者の構成に関するアンケート調査の実施

会員校及び協力していただいた12校の非会員校に入学者アンケート調査を実施。調査報告書を取りまとめ、ホームページ等で公表した。

○ 組織運営委員会主催セミナー

令和4年3月21日の臨時総会、会員協議会終了後、Zoom配信により開催した。

講師 日本体育大学 保健医療学部 教授 博士(医学) 伊藤 譲

演題 「オンライン授業で教育効果を高めるために必要な3つのこと」

○ 社団法人設立30周年記念事業

令和4年7月28日(木)に、パレスホテル東京 葵の間において、公益社団法人全国柔道整復学校協会 社団法人設立30周年記念事業として特別講演会を執り行った。

①. 特別講演会の部

東京慈恵会医科大学 特命教授 福島 統 先生「柔整教育の未来像 ―柔整教育に対する提言―」
(司会 玉利 かおる)

Ⅱ 収益事業

1. 教科書監修

柔道委員会等関係者と共同で「柔道」教科書の作成を行った。

Ⅲ 会員相互扶助事業

1. 会報の発行

毎年度季刊で発行している会報62～65号を発行した。

2. 優秀卒業生表彰

文武両道の精神を高揚し、学術並びに技術の習得に精励した学生に対して、学校協会賞の「表彰盾」を贈呈し表彰した。

令和4年度優秀卒業生名簿

学 校 名	氏 名	学 校 名	氏 名
北海道柔道整復専門学校	氏家 結菜	名古屋医健スポーツ専門学校	林 貴翔
北海道ハイテクノロジー専門学校	清水 涼雅	中和医療専門学校	藤田 流生
盛岡看護医療大学校	宇佐美 颯	北信越柔整専門学校	井出 真輝斗
仙台接骨医療専門学校	佐藤 未菜	京都医健専門学校	天野 拓己
赤門鍼灸柔整専門学校	高橋 翠夢	関西医療学園専門学校	松岡 郁也
福島医療専門学校	小西 真緒	明治東洋医学院専門学校	井関 翔子
中央スポーツ医療専門学校	橋本 浩平	平成医療学園専門学校	小野原 興世
大川学園医療福祉専門学校	井上 宏太	森ノ宮医療学園専門学校	脇田 笙吾
呉竹医療専門学校	梅沢 政宏	履正社国際医療スポーツ専門学校	木畑 亮佑
日本柔道整復専門学校	影森 真	近畿医療専門学校	姜 侑憲
東京柔道整復専門学校	堀田 健登	東洋医療専門学校	上山 稀己
東京医療専門学校	林 文大	関西健康科学専門学校	松本 尚之
日本医学柔整鍼灸専門学校	中田 真奈	朝日医療大学校	林 泰貴
スポーツ健康医療専門学校	熊谷 若菜	IGL医療福祉専門学校	小西 遼也
東京メディカル・スポーツ専門学校	小林 穂未	四国医療専門学校	山戸 良太
日本工学院八王子専門学校	加藤 愛菜	河原医療福祉専門学校	村上 寿里
日本健康医療専門学校	大谷 祐騎	福岡医療専門学校	尾島 愛依
関東柔道整復専門学校	福田 拓未	福岡医健・スポーツ専門学校	友利 洋元
新宿医療専門学校	宮内 千莉	福岡天神医療リハビリ専門学校	原田 文乃
アルファ医療福祉専門学校	安藤 晃大	九州医療スポーツ専門学校	小出 歩
東京医療福祉専門学校	小栗 拳希	九州医療専門学校	古澤 海人
呉竹鍼灸柔整専門学校	宮川 功平	専門学校沖縄統合医療学院	新垣 佑季
専門学校浜松医療学院	半澤 陸	計	46名
米田柔整専門学校	松村 怜南		

IV その他(法人会計)

1. 社団法人設立30周年記念事業

令和4年7月28日(木)に、パレスホテル東京 葵の間において、公益社団法人全国柔道整復学校協会 社団法人設立30周年記念事業として特別講演会、式典および祝賀会を以下の通り執り行った。当日は好天に恵まれ、会員校のみならず、学校協会未加入校、関連省庁、関連団体および関連企業を迎え、社団法人設立からの30年を共に振り返った。

①式典の部

- ・開式の辞 社団法人設立30周年記念事業準備委員会 田中理事
- ・会長挨拶 全国柔道整復学校協会 谷口会長
- ・祝辞
厚生労働大臣(代読:厚生労働省医政局 山本医事課長)
文部科学大臣(代読:文部科学省総合教育政策局生涯学修推進課 中安専修学校教育振興室長)
公益財団法人 柔道整復研修試験財団 今別府代表理事
公益社団法人 日本柔道整復師会 伊藤会長
一般社団法人 日本柔道整復接骨医学会 安田会長
- ・祝電披露
- ・表彰

厚生労働省 医政局長表彰の授与

学校法人呉竹学園 坂本理事長(全国柔道整復学校協会顧問)
学校法人木島学園 碓井理事長(全国柔道整復学校協会前会長、顧問)
全国柔道整復学校協会 関口副会長
全国柔道整復学校協会 大麻理事

全国柔道整復学校協会 会長表彰の授与

教員研修等委員会 本澤委員(日本工学院八王子専門学校)
教員研修等委員会 葉山委員(森ノ宮医療学園専門学校)
制度委員会 楠本委員(中和医療専門学校)
制度委員会 藤井委員(明治東洋医学院専門学校)
柔道委員会 早川委員(東京医療専門学校)
柔道委員会 泉澤委員(スポーツ健康医療専門学校)
柔道委員会 吉原委員(福岡医健・スポーツ専門学校)
複数委員会 川口委員(呉竹医療専門学校)

全国柔道整復学校協会 会長特別表彰の授与

筒井 寛幸(北海道柔道整復専門学校)
森岡 泰之(関西医療学園専門学校)
廣岡 聡(関西医療学園専門学校)
滝沢 哲也(福岡医療専門学校)
田中 康文(日本柔道整復専門学校)

全国柔道整復学校協会 会長感謝状の贈呈

株式会社南江堂
医歯薬出版株式会社
大和総合印刷株式会社
堀井公認会計士事務所
全国柔道整復学校協会 齊藤前事務局長
全国柔道整復学校協会 事務局 鈴木職員
全国柔道整復学校協会 事務局 田中職員

- ・社団法人設立30年の経過報告 全国柔道整復学校協会 関口副会長
- ・閉式の辞 社団法人設立30周年記念事業準備委員会 田中理事

②祝賀会の部

- ・開宴宣言 全国柔道整復学校協会 谷口会長
- ・開宴挨拶 全国柔道整復学校協会 櫻井顧問
- ・乾杯発声 全国柔道整復学校協会 坂本顧問
- ・社団法人設立30周年記念ショートムービーの投影
- ・閉宴挨拶 社団法人設立30周年記念事業準備委員会 田中理事

2. 「柔道整復師国家試験」模擬試験

会員校等の国家試験対策に役立てるため国家試験模擬試験を実施することとした。具体的には、このための特別委員会を新たに立ち上げ、模擬試験の現状及び実施時期等について会員校にアンケートを実施、この結果を踏まえ模擬試験実施方法の検討を行うと共に11月から12月にかけて実施希望校毎に試験を実施した。模擬試験実施二年目の令和4年度は、計56校(会員校38校、非会員校18校)、2,148名(会員校1,609名、非会員校539名)が参加した。

令和 4 年度決算報告書 (案)

自 令和 4 年 4 月 1 日
至 令和 5 年 3 月 3 1 日



公益社団法人 全国柔道整復学校協会

貸借対照表

令和 5年 3月31日現在

公益社団法人全国柔道整復学校協会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	3,436,043	5,332,023	△ 1,895,980
未収金	5,690	5,690	0
前払費用	26,020	26,490	△ 470
流動資産合計	3,467,753	5,364,203	△ 1,896,450
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
入会金積立資産	0	100,000,000	△ 100,000,000
退職給付引当資産	0	2,002,019	△ 2,002,019
投資有価証券	369,966,439	269,867,526	100,098,913
什器備品	5,600	6,629	△ 1,029
30周年記念事業準備基金	0	11,000,000	△ 11,000,000
公益目的運用資金	39,592,958	39,592,958	0
専科教員認定講習会事業積立資金	4,000,000	0	4,000,000
特定資産合計	413,564,997	422,469,132	△ 8,904,135
(2) その他固定資産			
電話加入権	144,000	144,000	0
差入保証金	2,621,696	2,621,696	0
その他固定資産合計	2,765,696	2,765,696	0
固定資産合計	416,330,693	425,234,828	△ 8,904,135
資産合計	419,798,446	430,599,031	△ 10,800,585
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,217,547	1,017,092	200,455
預り金	736,957	903,515	△ 166,558
未払法人税等	3,398,100	70,000	3,328,100
未払消費税等	251,300	1,701,100	△ 1,449,800
流動負債合計	5,603,904	3,691,707	1,912,197
2. 固定負債			
退職給付引当金	0	3,423,000	△ 3,423,000
固定負債合計	0	3,423,000	△ 3,423,000
負債合計	5,603,904	7,114,707	△ 1,510,803
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
(うち特定資産への充当額)	414,194,542 (413,564,997)	423,484,324 (420,467,113)	△ 9,289,782 (△6,902,116)
正味財産合計	414,194,542	423,484,324	△ 9,289,782
負債及び正味財産合計	419,798,446	430,599,031	△ 10,800,585

貸借対照表内訳表

令和 5年 3月31日現在

公益社団法人全国柔道整復学校協会

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	内部取引等消去	合計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金	0	0	3,436,043	0	3,436,043
未収金	0	0	5,690	0	5,690
他会計貸付金	0	10,835,882	45,079,526	△ 55,915,408	0
前払費用	0	0	26,020	0	26,020
流動資産合計	0	10,835,882	48,547,279	△ 55,915,408	3,467,753
2. 固定資産					
(1) 特定資産					
投資有価証券	369,966,439	0	0	0	369,966,439
什器備品	4,979	0	621	0	5,600
公益目的運用資金	39,592,958	0	0	0	39,592,958
専科教員認定講習会事業積立資	4,000,000	0	0	0	4,000,000
特定資産合計	413,564,376	0	621	0	413,564,997
(2) その他固定資産					
電話加入権	0	0	144,000	0	144,000
差入保証金	0	0	2,621,696	0	2,621,696
その他固定資産合計	0	0	2,765,696	0	2,765,696
固定資産合計	413,564,376	0	2,766,317	0	416,330,693
資産合計	413,564,376	10,835,882	51,313,596	△ 55,915,408	419,798,446
II 負債の部					
1. 流動負債					
未払金	0	0	1,217,547	0	1,217,547
預り金	0	0	736,957	0	736,957
未払法人税等	0	0	3,398,100	0	3,398,100
未払消費税等	0	0	251,300	0	251,300
他会計借入金	55,915,408	0	0	△ 55,915,408	0
流動負債合計	55,915,408	0	5,603,904	△ 55,915,408	5,603,904
負債合計	55,915,408	0	5,603,904	△ 55,915,408	5,603,904
III 正味財産の部					
1. 指定正味財産					
指定正味財産合計	0	0	0	0	0
2. 一般正味財産	357,648,968	10,835,882	45,709,692	0	414,194,542
(うち特定資産への充当額)	(413,564,376)	(0)	(621)	(0)	(413,564,997)
正味財産合計	357,648,968	10,835,882	45,709,692	0	414,194,542
負債及び正味財産合計	413,564,376	10,835,882	51,313,596	△ 55,915,408	419,798,446

正味財産増減計算書

令和 4年 4月 1日から令和 5年 3月31日まで

公益社団法人全国柔道整復学校協会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	1,560,184	2,521,516	△ 961,332
特定資産受取利息	1,560,184	2,521,516	△ 961,332
受取入会金	0	100,000	△ 100,000
受取入会金	0	100,000	△ 100,000
受取会費	30,846,000	31,362,667	△ 516,667
正会員受取会費	30,696,000	31,212,667	△ 516,667
賛助会員受取会費	150,000	150,000	0
事業収益	55,704,969	48,468,130	7,236,839
受取監修料	44,814,969	37,928,130	6,886,839
受取手数料	540,000	500,000	40,000
受取受講料	9,600,000	9,800,000	△ 200,000
受取参加料	750,000	240,000	510,000
雑収益	4,192,311	2,540,552	1,651,759
受取利息	511	552	△ 41
雑収益	4,191,800	2,540,000	1,651,800
経常収益計	92,303,464	84,992,865	7,310,599
(2) 経常費用			
事業費	80,277,608	74,515,144	5,762,464
役員報酬	696,620	725,820	△ 29,200
給料手当	21,299,513	19,580,654	1,718,859
退職給付費用	0	1,321,530	△ 1,321,530
福利厚生費	2,858,595	2,680,572	178,023
会議費	1,773,635	3,140,140	△ 1,366,505
広告宣伝費	176,000	0	176,000
旅費交通費	3,582,499	2,194,896	1,387,603
通信運搬費	1,843,029	2,010,742	△ 167,713
減価償却費	916	64,540	△ 63,624
消耗品費	2,897,513	2,225,987	671,526
修繕費	143,000	0	143,000
印刷製本費	3,949,528	1,851,311	2,098,217
光熱水料費	320,051	237,255	82,796
事務所家賃	6,696,581	7,142,981	△ 446,400
賃借料	11,067,973	4,489,496	6,578,477
報償費	564,684	857,840	△ 293,156
保険料	258,316	18,446	239,870
渉外費	50,680	2,160	48,520
諸謝金	12,523,858	11,836,037	687,821
租税公課	1,673,237	2,845,040	△ 1,171,803
支払助成金	2,991,000	3,624,000	△ 633,000
委託費	4,299,007	6,976,060	△ 2,677,053
支払手数料	169,690	215,465	△ 45,775
雑費	441,683	474,172	△ 32,489

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
管理費	17,917,538	14,202,503	3,715,035
役員報酬	2,141,774	2,105,814	35,960
給料手当	1,420,657	1,347,786	72,871
退職給付費用	0	99,470	△ 99,470
福利厚生費	215,162	201,763	13,399
会議費	433,719	362,240	71,479
旅費交通費	3,228,526	2,213,917	1,014,609
通信運搬費	53,406	55,108	△ 1,702
減価償却費	113	129	△ 16
消耗品費	85,117	110,610	△ 25,493
修繕費	0	11,220	△ 11,220
印刷製本費	143,844	142,453	1,391
新聞図書費	14,141	9,143	4,998
光熱水料費	24,089	17,857	6,232
事務所家賃	504,043	537,643	△ 33,600
賃借料	3,580,709	934,980	2,645,729
諸謝金	5,568	5,568	0
租税公課	40,365	71,912	△ 31,547
支払負担金	0	2,700,000	△ 2,700,000
委託費	3,666,529	791,872	2,874,657
渉外費	184,376	213,056	△ 28,680
支払手数料	196,914	172,714	24,200
支払報酬料等	952,380	991,100	△ 38,720
諸会費	1,000,000	1,000,000	0
雑費	26,106	106,148	△ 80,042
経常費用計	98,195,146	88,717,647	9,477,499
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 5,891,682	△ 3,724,782	△ 2,166,900
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 5,891,682	△ 3,724,782	△ 2,166,900
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 5,891,682	△ 3,724,782	△ 2,166,900
法人税、住民税及び事業税	3,398,100	70,000	3,328,100
当期一般正味財産増減額	△ 9,289,782	△ 3,794,782	△ 5,495,000
一般正味財産期首残高	423,484,324	427,279,106	△ 3,794,782
一般正味財産期末残高	414,194,542	423,484,324	△ 9,289,782
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	414,194,542	423,484,324	△ 9,289,782

正味財産増減計算書内訳表

令和 4年 4月 1日から令和 5年 3月31日まで

公益社団法人全国柔道整復学校協会

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計		収益事業等会計				法人会計	内部取引等消去	合計
	公1普及啓発	小計	収1収益	他1会員相互扶助	共通	小計			
I 一般正味財産増減の部									
1. 経常増減の部									
(1) 経常収益									
特定資産運用益	1,560,184	1,560,184	0	0	0	0	0	0	1,560,184
特定資産受取利息	1,560,184	1,560,184	0	0	0	0	0	0	1,560,184
受取会費	11,041,173	11,041,173	0	3,084,600	0	3,084,600	16,720,227	0	30,846,000
正会員受取会費	10,966,173	10,966,173	0	3,069,600	0	3,069,600	16,660,227	0	30,696,000
賛助会員受取会費	75,000	75,000	0	15,000	0	15,000	60,000	0	150,000
事業収益	10,890,000	10,890,000	44,814,969	0	0	44,814,969	0	0	55,704,969
受取監修料	0	0	44,814,969	0	0	44,814,969	0	0	44,814,969
受取手数料	540,000	540,000	0	0	0	0	0	0	540,000
受取受講料	9,600,000	9,600,000	0	0	0	0	0	0	9,600,000
受取参加料	750,000	750,000	0	0	0	0	0	0	750,000
雑収益	2,065,000	2,065,000	0	930,000	0	930,000	1,197,311	0	4,192,311
受取利息	0	0	0	0	0	0	511	0	511
雑収益	2,065,000	2,065,000	0	930,000	0	930,000	1,196,800	0	4,191,800
経常収益計	25,556,357	25,556,357	44,814,969	4,014,600	0	48,829,569	17,917,538	0	92,303,464
(2) 経常費用									
事業費	60,995,370	60,995,370	3,476,932	15,805,306	0	19,282,238	0	0	80,277,608
役員報酬	491,000	491,000	129,780	75,840	0	205,620	0	0	696,620
給料手当	17,451,843	17,451,843	708,294	3,139,376	0	3,847,670	0	0	21,299,513
福利厚生費	2,397,534	2,397,534	30,737	430,324	0	461,061	0	0	2,858,595
会議費	1,770,865	1,770,865	2,770	0	0	2,770	0	0	1,773,635
広告宣伝費	176,000	176,000	0	0	0	0	0	0	176,000
旅費交通費	1,763,681	1,763,681	1,061,529	757,289	0	1,818,818	0	0	3,582,499
通信運搬費	1,597,860	1,597,860	40,515	204,654	0	245,169	0	0	1,843,029
減価償却費	916	916	0	0	0	0	0	0	916
消耗品費	1,632,362	1,632,362	45,138	1,220,013	0	1,265,151	0	0	2,897,513
修繕費	143,000	143,000	0	0	0	0	0	0	143,000
印刷製本費	833,223	833,223	0	3,116,305	0	3,116,305	0	0	3,949,528
光熱水料費	268,432	268,432	3,441	48,178	0	51,619	0	0	320,051
事務所家賃	5,616,489	5,616,489	72,006	1,008,086	0	1,080,092	0	0	6,696,581
賃借料	6,587,124	6,587,124	0	4,480,849	0	4,480,849	0	0	11,067,973
報償費	564,684	564,684	0	0	0	0	0	0	564,684
保険料	258,316	258,316	0	0	0	0	0	0	258,316
渉外費	5,670	5,670	45,010	0	0	45,010	0	0	50,680
諸謝金	12,356,808	12,356,808	16,704	150,346	0	167,050	0	0	12,523,858
租税公課	370,927	370,927	1,302,310	0	0	1,302,310	0	0	1,673,237
支払助成金	2,991,000	2,991,000	0	0	0	0	0	0	2,991,000
委託費	3,145,806	3,145,806	0	1,153,201	0	1,153,201	0	0	4,299,007
支払手数料	133,450	133,450	18,695	17,545	0	36,240	0	0	169,690
雑費	438,380	438,380	3	3,300	0	3,303	0	0	441,683
管理費	0	0	0	0	0	0	17,917,538	0	17,917,538
役員報酬	0	0	0	0	0	0	2,141,774	0	2,141,774
給料手当	0	0	0	0	0	0	1,420,657	0	1,420,657
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	215,162	0	215,162
会議費	0	0	0	0	0	0	433,719	0	433,719
旅費交通費	0	0	0	0	0	0	3,228,526	0	3,228,526
通信運搬費	0	0	0	0	0	0	53,406	0	53,406
減価償却費	0	0	0	0	0	0	113	0	113
消耗品費	0	0	0	0	0	0	85,117	0	85,117
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	143,844	0	143,844
新聞図書費	0	0	0	0	0	0	14,141	0	14,141
光熱水料費	0	0	0	0	0	0	24,089	0	24,089
事務所家賃	0	0	0	0	0	0	504,043	0	504,043
賃借料	0	0	0	0	0	0	3,580,709	0	3,580,709
諸謝金	0	0	0	0	0	0	5,568	0	5,568
租税公課	0	0	0	0	0	0	40,365	0	40,365
委託費	0	0	0	0	0	0	3,666,529	0	3,666,529
渉外費	0	0	0	0	0	0	184,376	0	184,376
支払手数料	0	0	0	0	0	0	196,914	0	196,914
支払報酬料等	0	0	0	0	0	0	952,380	0	952,380
諸会費	0	0	0	0	0	0	1,000,000	0	1,000,000
雑費	0	0	0	0	0	0	26,106	0	26,106
経常費用計	60,995,370	60,995,370	3,476,932	15,805,306	0	19,282,238	17,917,538	0	98,195,146
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 35,439,013	△ 35,439,013	41,338,037	△ 11,790,706	0	29,547,331	0	0	△ 5,891,682
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 35,439,013	△ 35,439,013	41,338,037	△ 11,790,706	0	29,547,331	0	0	△ 5,891,682
2. 経常外増減の部									
(1) 経常外収益									
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用									
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減	△ 35,439,013	△ 35,439,013	41,338,037	△ 11,790,706	0	29,547,331	0	0	△ 5,891,682
他会計振替額	28,438,097	28,438,097	△ 28,438,097	0	0	△ 28,438,097	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 7,000,916	△ 7,000,916	12,899,940	△ 11,790,706	0	1,109,234	0	0	△ 5,891,682
法人税、住民税及び事業税	0	0	3,328,100	0	0	3,328,100	70,000	0	3,398,100
当期一般正味財産増減額	△ 7,000,916	△ 7,000,916	9,571,840	△ 11,790,706	0	△ 2,218,866	△ 70,000	0	△ 9,289,782
一般正味財産期首残高		364,649,884				13,054,748	45,779,692	0	423,484,324
一般正味財産期末残高		357,648,968				10,835,882	45,709,692	0	414,194,542
II 指定正味財産増減の部									
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高		0				0	0	0	0
指定正味財産期末残高		0				0	0	0	0
III 正味財産期末残高	357,648,968	357,648,968	34,519,636	△ 45,501,067	21,817,313	10,835,882	45,709,692	0	414,194,542

附属明細書

公益社団法人全国柔道整復学校協会

1. 特定資産の明細

財務諸表に対する注記で記載しているため、附属明細書での記載を省略する。

2. 引当金の明細

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	3,423,000	0	0	0	0

財務諸表に対する注記

公益社団法人全国柔道整復学校協会

1. 重要な会計方針

- (1) 満期保有目的の債権については償却原価法(定額法)によっている。
- (2) 固定資産の減価償却の方法
定率法によっている。
- (3) 退職給付引当金
従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務に基づき、当期末に発生していると認められる額を計上している。
- (4) リース物件については、通常の賃貸借取引による会計処理を適用している。
- (5) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
入会金積立資産	100,000,000	0	100,000,000	0
退職給付引当資産	2,002,019	1,421,009	3,423,028	0
投資有価証券	269,867,526	100,098,913	0	369,966,439
什器備品	6,629	0	1,029	5,600
30周年記念事業準備基金	11,000,000	0	11,000,000	0
公益目的運用資金	39,592,958	0	0	39,592,958
専科教員認定講習会事業積立資金	0	4,000,000	0	4,000,000
小 計	422,469,132	105,519,922	114,424,057	413,564,997
合 計	422,469,132	105,519,922	114,424,057	413,564,997

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
特定資産				
投資有価証券	369,966,439	(0)	(369,966,439)	(0)
什器備品	5,600	(0)	(5,600)	(0)
公益目的運用資金	39,592,958	(0)	(39,592,958)	(0)
専科教員認定講習会事業積立資金	4,000,000	(0)	(4,000,000)	(0)
小 計	413,564,997	(0)	(413,564,997)	(0)
合 計	413,564,997	(0)	(413,564,997)	(0)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	1,248,307	1,242,707	5,600
合 計	1,248,307	1,242,707	5,600

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時 価	評価損益
20年国債	109,595,000	110,440,000	845,000
第231回・日本高速道路保有・債務返済機構	100,000,000	100,802,400	802,400
神奈川県第252回公募公債	60,371,439	58,346,640	△ 2,024,799
第70回日本学生支援債券	100,000,000	100,112,800	112,800
合 計	369,966,439	369,701,840	△ 264,599

財産目録

令和 5年 3月31日現在

公益社団法人全国柔道整復学校協会

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金 額	
(流動資産)	預金	普通預金		3,056,013	
		みずほ銀行	運転資金として	32,576	
		浜松町支店			
		三井住友銀行	運転資金として	2,776,096	
		浜松町支店			
		ゆうちょ銀行	運転資金として	200,877	
	未収金	三井住友銀行/浜松町郵便振替口座	運転資金として	46,464	
			380,030		
			5,690		
前払費用	その他	その他	5,690		
	柔道大会	会場予納金	26,020		
流動資産合計				3,467,753	
(固定資産) 特定資産	投資有価証券	20年国債	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業に使用している。	369,966,439	
				109,595,000	
		第231回・日本高速道路保有・債務返済機構債	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業に使用している。	100,000,000	
		神奈川県第252回公募公債	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業に使用している。	60,371,439	
		第70回日本学生支援債券	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業に使用している。	100,000,000	
	什器備品			5,600	
		マークシートリーダー	公益目的保有財産であり、公1事業に使用している。	1	
		パソコン	事務所で使用しているパソコンである。	1	
		備品、金庫	共用財産であり、うち88.9%は公益目的保有財産として公1事業の用に供し、11.1%は管理運営の用に供している。	5,598	
	公益目的運用資金			39,592,958	
		三井住友銀行 浜松町支店	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業に使用している。	39,592,958	
	専科教員認定講習会事業積立金			4,000,000	
		三井住友銀行 浜松町支店	特定費用準備資金であり、専科教員認定講習会事業のための積立資金	4,000,000	
	その他固定資産	電話加入権	事務所で使用している電話の加入権である。	144,000	
		差入保証金	東京都港区浜松町1-6-2丸神ビル1階	事務所の保証金	2,621,696
	固定資産合計				416,330,693
	資産合計				419,798,446
	(流動負債)	未払金	NTT等	経費未払金	1,217,547
			その他	その他	997,655
				219,892	
預り金				736,957	
		源泉所得税	委員等から徴収した源泉所得税の預り分	75,469	
		住民税	住民税預り分	69,600	
		社会保険料	職員から徴収した社会保険料の預り分	165,901	
		税務署	職員等から徴収した源泉所得税の預かり分	33,430	
		税務署	土業に対する源泉所得税預かり分	12,557	
		その他	その他	380,000	
		未払法人税等	法人税等の未払額	3,398,100	
		未払消費税等	消費税の未払額	251,300	
流動負債合計				5,603,904	
負債合計				5,603,904	
正味財産				414,194,542	

監 査 報 告

公益社団法人 全国柔道整復学校協会
会 長 谷 口 和 彦 殿

令和5年5月12日

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

監 事 米田忠正 
監 事 清水尚道 

私たちは、令和4年4月1日から令和5年3月31日までの令和4年度における公益社団法人全国柔道整復学校協会の会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、理事の業務執行の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査意見

- (1) 収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支状況及び財産状態を正しく表示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容は真実であると認める。
- (3) 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する事項は無いと認める。

以 上

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

令和4年度 第14回理事会議事録

1. 開催された日時 令和5年3月17日（金） 12:35～14:28

2. 開催された場所 全国柔道整復学校協会事務局
東京都港区浜松町1-6-2 丸神ビル1階

3. 理事総数及び定足数 総数 8名、定足数 5名

4. 出席理事数 7名

5. 議 題

決議及び承認事項

- 第1号議案 令和5年度事業計画、収支予算の件
- 第2号議案 非加盟校への入会説明訪問の件（意識アンケート調査結果より）
- 第3号議案 事前審査委員会による現地訪問調査の件
- 第4号議案 国家試験問題漏洩に関する学校協会対応の件
- 第5号議案 臨時総会の運営の件
- 第6号議案 令和5年度理事会等開催日程の件
- 第7号議案 委員会委員人事の件

報告事項

- 第1号報告 代表理事の職務執行報告及び行事予定（3月、4月）の件
- 第2号報告 第31回柔道整復師国家試験出題問題に関する意見書の件
- 第3号報告 その他報告

6. 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認等

冒頭で事務局長より、オンラインでの出席を含めて理事総数8名中7名が出席、1名が欠席であること、したがって開催要件の定足数たる過半数5名以上の出席を充足していることを確認した。また、オンライン出席者とは事前に適時的確な意見表明ができる環境にあることも確認された。

(2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款の規定に基づき、谷口会長が議長として本会議の成立を宣した。

議事録署名人は定款第33条第2項の規定に基づき、谷口会長、関口副会長、米田監事及び清水監事とし、議案の審議に移った。

①第1号議案 令和5年度事業計画、収支予算の件

事務局長から、前回理事会で継続審議となった令和5年度事業計画、収支予算案（以下、「事業計画案等」という。）について、再度資料に基づき説明。

審議の結果、事業計画案等どおり出席理事一致で可決した。

②第2号議案 非加盟校への入会説明訪問の件（意識アンケート調査結果より）

谷口会長から、前回理事会で継続審議となった、意識アンケート調査で学校協会入会に関心があると回答した3校への対応について、学校協会活動の現状説明のため、自身と関口副会長及び事務局長による訪問を提案。

審議の結果、本提案を出席理事一致で可決した。

なお、審議の過程で関口副会長から、再入会に関する規程を整備する必要がある旨の発言があった。

③第3号議案 事前審査委員会による現地訪問調査の件

事前審査委員会の大麻理事及び齊藤理事から、仙台医健・スポーツ専門学校（以下、「同校」という。）に対する3月10日の訪問調査結果について報告すると共に、これ等の結果を踏まえ、同校入会の可否を決するか或いは継続案件とするか、理事会に判断をお願いしたいと発言。

理事会では、同校入会は継続案件とすることを出席理事一致で可決した。

④第4号議案 国家試験問題漏洩に関する学校協会対応の件

関口副会長から、新宿医療専門学校提出の同問題報告書について説明。

引き続き、本理事会終了後に開催する会員協議会報告について議論を行った。

⑤第5号議案 臨時総会の運営の件

事務局長から、本理事会後に開催する臨時総会・会員協議会の運営及び進行について、次第等に基づき説明。審議の結果、事務局長説明案どおり出席理事一致で可決した。

⑥第6号議案 令和5年度理事会等開催日程の件

事務局長から、令和5年度の総会及び理事会並びに主要行事（柔道大会、教員研

修会等)開催日程案を説明。審議の結果、事務局長説明案どおり出席理事一致で可決した。

⑦第7号議案 委員会委員人事の件

廣岡理事から、東京柔道整復専門学校の退会に伴い柔道委員会委員に欠員が生じたため、日本柔道整復専門学校の前田泰彦先生を委員に選任したいと説明。審議の結果、廣岡理事説明案どおり出席理事一致で可決した。

⑧第1号報告 代表理事の職務執行報告と行事予定(3月、4月)の件

谷口会長、関口副会長から、職務執行として3月及び4月の各委員会の活動状況・予定並びに諸行事の予定を報告。

⑨第2号報告 第31回柔道整復師国家試験出題問題に関する意見書の件

谷口会長から、以下の内容を報告。

- ・第31回柔道整復師国家試験問題に関し、各校より数多くのご意見とその根拠資料を提出していただき、それらを取りまとめ、会長名の意見書として柔道整復研修試験財団代表理事宛てに提出
- ・意見書は「全体的な設問の内容・レベルについて」、「複数回答があると思われるもの」、「設問の表現に工夫を要すると思われるもの」の3カテゴリーに分類し集約
- ・「全体的な設問の内容・レベルについて」は、①必修問題は全体的に難易度が高すぎる、②必修問題は疾患の偏りが少なくバランス良い問題及び出題基準に沿って出題範囲の工夫をお願いしたい、③一般問題は全体的な問題レベルにおいて妥当、との纏め方を行った
- ・「複数回答があると思われるもの」、「設問の表現に工夫を要すると思われるもの」については添付資料のとおり
- ・各校からは自己採点結果、今回の国家試験は全体的に相当厳しかったとの声を聞いている

⑩第3号報告 その他報告

なし。

以上をもって議案の審議等を終了したので、14時28分、議長は閉会を宣し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した会長、副会長及び監事は記名押印する。

令和5年3月17日

会 長 谷 口 和 彦 印

副 会 長 関 口 正 雄 印

監 事 米 田 忠 正 印

監 事 清 水 尚 道 印

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

令和5年度 第1回理事会議事録

1. 開催された日時 令和5年4月21日（金） 13:50～16:15

2. 開催された場所 全国柔道整復学校協会事務局
東京都港区浜松町1-6-2丸神ビル1階

3. 理事総数及び定足数 総数 8名、定足数 5名

4. 出席理事数 8名

5. 議 題

決議及び承認事項

第1号議案 今年度専科教員認定講習会の運営の件

第2号議案 諸規程（専科教員認定講習会実施規程）の改正の件

第3号議案 委員会委員の人事の件

第4号議案 国家試験問題漏洩に関する学校協会の対応の件

報告事項

第1号報告 代表理事の職務執行報告及び行事予定（4月5月）の件

第2号報告 各委員会の件

第3号報告 関係団体

第4号報告 その他

6. 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認等

冒頭で事務局長より、オンラインでの出席を含めて理事総数8名中全員が出席であること、したがって開催要件の定足数たる過半数5名以上の出席を充足していることを確認した。また、オンライン出席者とは事前に適時的確な意見表明ができる環境にあることも確認された。

(2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款の規定に基づき、谷口会長が議長として本会議の成立を宣した。

議事録署名人は定款第33条第2項の規定に基づき、谷口会長、関口副会長、米田監事及び清水監事とし、議案の審議に移った。

①第1号議案 今年度専科教員認定講習会の運営の件

事務局長から、今年度専科教員認定講習会について、

- ・東日本会場（以下、「東京会場」という）18名、西日本会場（以下、「大阪会場」という）19名が受講申込
- ・今後の日程は、5月14日に受講試験、5月16日に可否判定と報告。

谷口会長から、今回は受講申込が定員に満たないが計画通り今年度も講習会を実施することを提案。審議の結果、過半数の賛成で本案を可決した。

②第2号議案 諸規程（専科教員認定講習会実施規程）の改正の件

事務局長から、継続審議となっている専科教員認定講習会実施規程改正案について、伊藤担当理事及び廣岡理事による検討案を説明。審議の結果、過半数の賛成で本案を可決した。

③第3号議案 委員会委員の人事の件

事務局長から、日本工学院八王子専門学校及び呉竹医療専門学校から申請のあった両校教員の異動に伴う委（部）員交代案について説明。審議の結果、過半数の賛成で本案を可決した。

④第4号議案 国家試験問題漏洩に関する学校協会の対応の件

谷口会長から、前回理事会以降の国家試験問題漏洩（以下、「問題漏洩」という。）報道及び柔道整復研修試験財団（以下、「試験財団」という。）の国家試験委員公募実施についての報告と共に、問題漏洩報道を踏まえ対応策の機関決定が必要との清水、米田両監事提案について議論したい、と説明。

その後の議論では、問題漏洩報道に対する報道機関への反論は困難なことから、過日取り纏めた「第31回柔道整復師国家試験問題に関する意見書」について、試験財団に対し評議員及び理事による審議を経た回答を求めると共に、学校協会ホームページに同意見書を掲載する等、第31回国家試験問題の問題点について積極的な情報発信を行い、併せて厚生労働省に対し、これ等学校協会の活動を情報提供することを過半数の賛成で可決した。

⑤第1号報告 代表理事の職務執行報告と行事予定（4月、5月）の件

谷口会長、関口副会長から、職務執行として4月及び5月の各委員会の活動状況・予定並びに諸行事の予定を報告。

⑥第2号報告 各委員会の件

ア. 教育支援委員会教科書部会

齊藤理事から、「柔道」教科書作成について、今月25日に講道館を訪問し打合せを行う予定と報告。

イ. 教育支援委員会教員研修等部会

伊藤理事から、今月21日に部会を開催し、来年度研修会の開催候補日を複数に絞ったと報告。理事会は同候補日中、9月21日（土）、22日（日）両日を開催日に可決した。

ウ. 教育支援委員会専科教員認定講習部会

伊藤理事から、5月14日に行う受講試験実施体制について本理事会の意見を求めたいと発言。審議の結果、

- ・試験総括者は、東日本会場（以下、「東京会場」という）は齊藤理事、西日本会場（以下、「大阪会場」という）廣岡理事
 - ・小論文試験委員は、東京会場は関口副会長と齊藤理事、大阪会場は谷口会長、武田大輔先生（関西医療学園専門学校校長）
 - ・面接試験委員は、大阪会場は、葉山先生、入江先生（森ノ宮医療学園専門学校）、北野先生（平成医療学園専門学校）、辻井先生（履正社国際医療スポーツ専門学校）、
 - ・東京会場は、永野先生（新宿医療専門学校）、奥田理事、山口先生（日本柔道整復専門学校）、東京メディカル・スポーツ専門学校より選任の1名
- とすることを過半数の賛成で可決した。

エ. 教育支援委員会柔道整復師国家試験模擬試験部会

齊藤理事から、今月20日に部会を開催し、昨年度模擬試験の実施報告と共に、今年度模擬試験を12月2日から同月17日の間に実施することを決定したと報告。

オ. 広報・調査委員会

大麻理事から、今月18日に委員会を開催し、会報7月号目次及び入学者の構成に関するアンケート調査の実施手法について検討を行ったと報告。

カ. 柔道委員会

廣岡理事から、今月24日に委員会を開催予定と報告。

キ. 組織運営委員会

無し。

ク. 柔道整復師養成施設カリキュラム次期改訂に向けた検討会議

齊藤理事から、カリキュラム次期改訂に向けた検討作業部会を今月20日既開催、
次回は5月11日開催予定と報告。

⑦報告事項3 関連団体等の件

ア. (公財) 柔道整復研修試験財団

関口副会長から、今年度認定実技審査は10月29日、11月3日、5日、12日、19日、23日に実施予定と報告。

イ. (一社) 日本柔道整復接骨医学会

伊藤理事から、今年度学術大会開催に向けた検討状況について報告。

ウ. (公社) 日本柔道整復師会

なし。

エ. (一社) 柔道整復教育評価機構

関口副会長から、今年度第二次評価実施に向けた検討状況について報告。

オ. 厚生労働省

事務局長から、医政局医事課担当者の異動状況について報告。

カ. 文部科学省

なし。

⑧報告事項4 その他の件

事務局長から、会員校より届出のあった校名、正会員変更の内容、及び第二次評価受審経費助成金交付要綱案について報告。

以上をもって議案の審議等を終了したので、16時15分、議長は閉会を宣し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した会長、副会長及び監事は記名押印する。

令和5年4月21日

会 長 谷 口 和 彦 印

副 会 長 関 口 正 雄 印

監 事 米 田 忠 正 印

監 事 清 水 尚 道 印



令和5年度 第1回教育支援委員会 専科教員認定講習部会 議事録



日 時	令和5年4月10日（月）14：00～15：00
会 場	公益社団法人 全国柔道整復学校協会 会議室
出席者	3名

議題

- (1) 受講試験問題の策定について
- (2) 受講者資格について
- (3) 受講試験運営マニュアルについて
- (4) その他

配布資料

- 資料①受講試験問題（案） ※会議終了後に回収した。
- 資料②受講者一覧 ※会議終了後に回収した。
- 資料③受講試験運営マニュアル（案）
- 資料④事務関連書類一覧
- 資料⑤小論文評価基準と評価表
- 資料⑥面接試験評価表
- 資料⑦受講試験における感染対策について（案）
- 資料⑦-2受講試験における健康観察ならびに同意書

会議内容

- (1) 学科試験の策定について
 - ・ 受講試験問題（案）の54問として柔道整復学の骨折、脱臼、軟部組織損傷を各部員で担当し、各々が18問ずつ作成し3月末日までに事務局に提出した。
 - ・ 提出された試験問題を学校協会事務局が基本的な書式の統一、問題順の整理、誤字・脱字の訂正などをおこなった。
 - ・ 出席者によって作成担当外の試験問題を閲覧し、54問中から適正とされる50問を選定し、最終確認として試験問題の体裁を整えた。
- (2) 受験者資格について
 - ①本年度の講習会受講試験受験者数
東京会場18名 大阪会場19名（4月10日現在）
→4月21日の理事会にて受講者数における講習会の実施について最終確認する。

②願書に不備がある3名について

- ・出身校が閉校による調査書未提出者
→昨年度も同様の事例があり本年度も認めても良い旨を確認したが、次回より調査書に変わる提出書類として成績証明書ならびに教育実習先の確約があることを条件としてはどうかとの意見があり、規約に明記することを前提に理事会の判断を仰ぐこととした。
- ・卒業後の研修先が介護施設のみであるが10年の職歴がある者
→柔道整復の職域の一部として介護施設などでの運動指導も含まれており、昨年度も同様の事例があったので認めても良い旨を確認した。
- ・卒業後の研修先での接骨院勤務日数が少ない者
→週2日の3年6か月の勤務であるが、他の職種が鍼灸養成施設の教員であり、卒業後の通算では約7年の職歴を有しており、卒業後5年間の職務経験の内訳については規約に明記されていないので、専科教員認定講習部会として今回は受験を無効にするまでの根拠に乏しいと判断した。また職歴の目安とする週における実就労日数と時間を、規約に明記することを前提に理事会の判断を仰ぐこととした。
したがって、願書不備の3名に関して専科教員認定講習部会としては全員の受験を認めると判断した。

(3) 受講試験運営マニュアル（案）について

従前より提案のあった事項を纏めた受講試験運営マニュアル（案）が伊藤理事より提出された。内容は適時閲覧していた内容でもあり、今回の会議出席者3名で再度内容を精査し、4月20日（木）までに意見を提出することとした。

(4) その他

①専科教員認定講習会事務関連の書類について

全資料21種類について全てにナンバリングをおこない、規約内に差し込むことを専科教員認定講習部会としては、概ね問題は無いと判断した。

②小論文評価基準と評価表について

③面接試験評価表について

今回は小論文・面接ともに評価表に沿って採点し、30点未満の場合にはコメントを添えて判定会議の資料とすることとして、次年度以降は明らかな受講不適格者を抽出する採点方式としてはどうかとの意見があり、理事会の判断を仰ぐこととした。

④受講試験における感染対策について（案）

昨年度に準じた感染予防対策として、受講試験における医療人としてのマナー・マスク着用の基準・試験会場入室時の検温と手指アルコール消毒の実施、についての申し送り事項を確認し、一部の訂正ならびに健康観察表と同意書の添付を削除することとした。

⑤今後のスケジュール確認

5月16日（火）第2回専科教員認定講習部会

→受講試験を機械採点後は午後2時から試験内容の検討作業を行うことを確認した。

9月4日（月）第3回専科教員認定講習部会

→午後2時から各会場修了試験問題の検討作業を行うことを確認した。

10月3日（火）第4回専科教員認定講習部会（前回の会議より期日の変更あり）

→修了試験の機械採点後、午後2時から行うことを確認した。

11月 未定 第5回専科教員認定講習部会

→次年度の主幹校についての申し送りを、午後2時から行うことを確認した。

令和6年1月15日（月）第6回専科教員認定講習部会

→午後2時から次年度の計画等を検討することを確認した。

以 上



令和5年度 第2回教育支援委員会 専科教員認定講習部会 議事録



日 時	令和5年5月16日（火）14：00～17：30
会 場	公益社団法人 全国柔道整復学校協会 会議室
出席者	5名

議題

- (1) 受講試験の可否判定について
- (2) その他

配布資料

- (1) 受講試験成績一覧表
- (2) 受講試験問題解答付 ※会議終了後に回収した。
- (3) 成績集計分析データ（会場毎に得点順・受験番号順の結果一覧、問題毎の正答率・識別係数等の結果一覧） ※正答率の分析後に回収した。
- (4) その他

会議内容

- (1) 受講試験の各会場報告
 - 1) 東京会場：学科試験報告書より
受験希望者17名、欠席者0名、受験者17名。遅刻、受験票忘れは無かった。また試験中の離席・問題に対する質問・不正行為も無かった。
 - 2) 大阪会場：学科試験報告書より
受験希望者19名、欠席者0名、受験者17名。遅刻、受験票忘れは無かった。試験中の離席・問題に対する質問・不正行為も無かった。
- (2) 受講試験の採点について
午後2時より、学校協会事務局において、一昨日実施した試験の採点を行った。
- (3) 受講試験の可否について
 - 1) 東京会場（受験者17名、欠席者0名）
小論文試験、学科試験、面接試験の総合点で合格者を選抜し、合格者17名が決定した。
 - 2) 大阪会場（受験者19名、欠席者0名）
小論文試験、学科試験、面接試験の総合点で合格者を選抜し、合格者19名が決定した。



令和5年度 第1回教育支援委員会 柔道整復師国家試験模擬試験部会 議事録



日 時	令和5年4月20日（木）16：00～17：00
会 場	（公社）全国柔道整復学校協会 オンライン会議
出席者	12名

議題

- (1) 令和4年度実施報告
- (2) 令和5年度実施計画の検討
- (3) その他

配布資料

- (1) 令和4年度第1回「柔道整復師国家試験」模擬試験実施検討委員会次第
- (2) 模擬試験アンケート結果
- (3) 令和4年度模擬試験問題に対する質問内容

会議内容

- (1) 谷口会長より冒頭の挨拶では模擬試験実施の趣旨として学校協会が模擬試験を実施することでスケールメリットを活用した教育活動に寄与する。令和4年度実施後のアンケート内容を鑑み参加校参加者を増やすために検討してほしいとの説明があった。
- (2) アンケート結果の報告から模擬試験実施方法について
 - 1) 時期について
 - ・令和5年度模擬試験実施期間について、12月2日（土）～12月17日（日）の期間中に各校にて実施することとなった。
 - 2) 採点について
 - ・令和4年度については学校協会でマークシート読取データ抽出を行ったが受験番号等のマークミスが多発し修正に時間を要し更に適切な成績が返却されない等の問題が発生した。この点を改善するために稲岡副部長（滋慶学園国家試験対策センター長）から令和4年度同様に学校協会にてマークシートを取り纏めその後滋慶学園国家試験対策センターに転送しマークシート読取、データ解析を行う旨の提案をいただき谷口会長、齊藤担当理事の承諾が得られた。また、成績の返却データは令和4年度の内容に加え、個票も併せて返却することとなった。

3) 試験問題について

- ・アンケートから模擬試験が国家試験過去問題中心で作成していることと実施時期から難易度が平易であるとの意見が散見された。

上記意見に対し

- ・各校問題作成数のおおよそ2割をオリジナル問題とし難易度を調整することとした。
- ・柔道整復師国家試験出題基準2022年度版（公益財団法人柔道整復研修試験財団編集）に準拠し（昨年と同様）問題作成時には教科書の内容を重視すること。
- ・令和4年度まで直近5年間の国家試験過去問題（選択肢等の変更を加えずそのまま）の使用が制限されていたが直近5年間の問題を使用可となったが必要に応じて適宜工夫を加え（昨年と同様）問題作成をすることとなった。
- ・作問の担当は令和4年度と同様にする。（ただし担当校の入れ替わりがありこの部分に関しては秋津副部会長と杉山が協議し決める。）

議事内容ではないが令和4年度までの作問について記載する。

※柔道整復師国家試験出題基準2022年度版（公益財団法人柔道整復研修試験財団編集）に準拠すること。

※問題の中心は国家試験過去問題を用いる。

※直近5年の過去問題に関しては選択肢順序の入れ替え等多少の変更を加えること。

※オリジナル問題に関しては1割程度にすること。（令和5年度から2割程度）

※提出する際の問題フォームについて、昨年度と同様、問題を整理するために2022年度版出題基準のページ数・大項目・中項目・小項目・過去問原文・オリジナル問題などを入力する箇所を設けて作成する。

※必修問題はAタイプ、一般問題はAタイプおよびX2タイプで出題する。

AタイプとX2の割合や「正しいのはどれか」と「誤っているのはどれか」の割合については特に指定しない。

※臨床実地問題について、原文のままでの作問やレントゲンなどの図の利用に特に制限しない。

※出題頻度について、特に制限しない。

※二重否定の問題は避ける。

4) 作業工程について

- ・令和5年度については秋津副部会長と杉山が協議作成し作問担当表及び問題フォームと共に部員に回付する。

5) 今後の予定

模擬試験参加校募集の案内送付

以 上



令和５年度 第１回広報・調査委員会 議 事 録



日 時	令和５年４月18日（火）14：00～16：00
会 場	ZOOMによるオンライン併用会議
出席者	10名

議 題

- (1) 前回委員会議事録の確認
- (2) 広報業務について
- (3) 調査業務について
- (4) その他

配布資料

1. 令和４年度第４回広報・調査委員会議事録 資料１
2. 会報誌第67号『柔道整復学校協会会報誌掲載順リスト』 資料２
3. 会報誌第67号裏表紙用専科教員認定講習会ポスター 資料３
4. 専科教員認定講習会ポスター送付報告 資料４
5. 会報誌第67号『会報誌目次（案）』 資料５
6. 『教員紹介リレー』会報誌第66号掲載内容 資料６
7. 『卒業生のキャリア』ホームページ掲載見本 資料７
8. 令和５年度広報・調査委員会事業計画書 資料８
9. 令和５年度第２回広報調査委員会開催計画書（案） 資料９
10. 令和５年度入学者の構成に関するアンケート調査実施フロー（案） 資料10
11. 令和５年度入学者の構成に関するアンケート調査事前アンケート（案） 資料11

会議内容

冒頭、大麻担当理事から挨拶及び各委員から各校の近況の報告を行った。

- (1) 前回委員会議事録の確認
資料１を参照し、前回委員会の議事録の確認を行った。

(2) 広報業務について

会報誌第67号（令和5年7月発行予定）について

- ①資料2を参照し、「わが街の見どころ聞きどころ」担当校（九州医療スポーツ専門学校）への依頼について確認した。編集後記については、仙台赤門医療専門学校亀井委員が担当する。6月中旬までに原稿を提出する。
- ②資料3を参照し、会報誌第67号裏表紙用の専科教員認定講習会ポスターを確認した。表紙色に合わせてブルーに変更する。
- ③資料5を参照し、永田事務局長から会報誌第67号の目次案の報告があった。掲載記事が少ないため、スポットで掲載する記事について検討を行い、大麻担当理事から、「私立学校法」改正案の掲載と「柔道整復師養成施設指定規則等の改正に関するQ & A」一部改正等の掲載について提案があり、第67号の掲載に向けて準備する。
佐藤委員から、総会や会員協議会後に開催しているセミナーの報告記事の掲載について提案があり、令和5年3月17日に開催した、臨時総会・会員協議会後のセミナー「オンライン授業で教育効果を高めるために必要な3つのこと」の報告記事を第67号に掲載することが決定した。報告記事は、鹿庭副委員長が作成する。
- ④資料6を参照し、会報誌第66号に掲載済みの教員紹介リレーを確認した。第67号の寄稿者は、呉竹医療専門学校の川口央修先生を予定している。

卒業生のキャリア（ホームページ掲載）について

近々の新規加盟校がないため、現在は追加掲載の予定はなし。

永田事務局長から、加盟校の退会にともない卒業生のキャリアの修正について確認があった。修正は、ホームページ業者へ依頼することになり費用も発生するため、退会校の削除の他、掲載校の名称変更の対応と目次の削除を追加して行うことで決定した。

また、廣木委員長から、掲載している卒業生の所属先等の確認と修正の必要性についても確認があり、今後の修正作業に向けて検討することとなった。

専科教員認定講習会開催告知ポスター及びチラシの送付報告について

廣木委員長から、令和5年度専科教員認定講習会ポスター及びチラシを加盟校と各都道府県の柔道整復師会へ送付済みである旨、報告があった。

(3) 調査業務について

令和5年度入学者の構成に関するアンケート調査について

大麻担当理事から、Web版アンケート（google フォームを利用）とアンケート用紙を利用したハイブリット形式で実施することが報告された。

鹿庭副委員長から、資料10、11を参照し、アンケート調査フローと各養成校を対象とした事前アンケートの説明があった。事前アンケートは、5月中に実施する。入学者対象のアンケート調査は、6月初旬頃から6月30日までの期間で予定している。

アンケート用紙を利用した調査の集計値は、従来通り学校協会事務局へ提出し、Web版アンケートの回答集計は、鹿庭副委員長で対応することを確認した。

佐藤委員から、高等学校新卒者を対象に卒業した学科の質問項目を追加してはどうかと提案があり、今年度調査から追加することで決定した。

調査報告は、会報誌第68号（令和5年10月発行予定）へ掲載予定である。

(4) その他

専科教員認定講習会PR原稿について

大麻担当理事から、2月、3月発刊の鍼灸柔整新聞へ掲載し、その効果は現時点では明らかではないが、令和5年度も継続して同紙へPR原稿を掲載する方針であることが示された。

次回広報・調査委員会について

次回の令和5年度第2回広報・調査委員会は、令和5年7月18日（火）14時から16時に全国柔道整復学校協会会議室にて開催予定と報告があった。

議題として、会報誌第68号について、新規加盟校の『卒業生のキャリア』ホームページ掲載について、入学者の構成に関するアンケート調査について、他を予定している。

以 上



令和5年度 第1回柔道委員会 議 事 録



日 時	令和5年4月24日（月）14：00～16：00
会 場	（公社）全国柔道整復学校協会 会議室
出席者	6名

議 題

- (1) 大会形式について
- (2) 大会係員分担について
- (3) その他

会議内容

- (1) 大会形式について

『試合形式について』

- ・柔道経験者の学生減少やコロナの状況が落ち着いてはきているが練習不足の学生もいるとおもわれるので男女共に去年の試合形式で開催する。
- ・事前に参加校を把握するためにアンケートを実施する。参加校の数が多い場合にリーグ戦だと試合数が増え、時間がかかるため参加校が多い場合はリンク戦で実施することも考える。
- ・柔道大会に出たい学生がいるにも関わらず人数が足りないため団体戦に出れない学校も今後、でてくる可能性があるため個人戦や人数が足りない学校同士でチームを編成して参加できるような対応も考えていく必要があるのではないか。

『形演武について』

- ・認定実技審査と同じ投の形（手技、腰技、足技）で行う。

『コロナ感染対策について』

- ・コロナ感染状況の様子をみて政府や武道館の指針に従って対応していく。

- (2) 大会係員分担について

- ・係員分担は去年と同じで行う。

- ・係員の主任はインカムを持ち各試合場や係員同士で連絡が取り合えるようにしていく。
- ・大会中に誰が係員か分からないため救護係はビブス、その他の係員には腕章を着用する。
- ・他校の教職員や学生が当日、手伝いをおこなうため事前に顔合わせや打合せが必要である。
前日に集まり打合せを行うのは難しいためオンラインで打合せを行うのはどうか。
- ・大会が8月31日で授業が始まっている学校が多いため大会運営の係員の確保が難しいとおもわれるためアンケートで大会運営のお手伝いができる職員がいるか確認してもよいのではないかな。

以 上



令和5年度 第2回柔道委員会 議 事 録



日 時	令和5年5月29日（月）14：00～16：00
会 場	（公社）全国柔道整復学校協会 会議室
出席者	6名

議 題

- （1）大会準備について
- （2）大会運営について
- （3）その他

会議内容

【議題1】大会準備について

『参加希望校アンケート結果について』

- ・男子5人制14校、男子3人制15校
女子3人制14校
形演武10組（検討中が2組）

『ビブス、腕章について』

- ・大会当日、係員が明確に分かるようにビブスと腕章を購入する。救護はビブス、その他の係員は腕章をつける。

『係員の打合せについて』

- ・大会当日に初めて会う係員もいるため試合前に各部署で顔合わせをおこない業務内容の確認を行う。

【議題2】大会運営について

『試合形式について』

- ・リーグ戦で行う場合4校リーグが多いと試合数が増えて試合が重なり試合待ちのチームが出る可能性がある。また3校リーグで直前に欠場がでた場合、1試合しかできないチームがでてしまう。

そのため、欠場校がでた場合でも試合の組み直しが容易なリンク戦で実施したほうが最低でも2試合はできるため今年度はリンク戦で実施することとした。

- ・試合は4会場で行うが形演武の出場希望が多いため昼は6会場分敷いて設営をおこなう。
- ・リンク戦では4会場で実施すると試合開始から3時間くらいで決勝戦をおこなえる。

『大会規定の変更について』

- ・男子3人制：補欠2名→1名に変更
- ・女子3人制：補欠2名→1名に変更
- ・今年度はリンク戦でおこなうため大会規定の内容を変更する。

『大会ルールについて』

- ・前年度と同じく国際試合審判規定に申し合わせ事項として下半身への攻撃、防御ありを加えて行う。
- ・明らかな下半身への防御姿勢は指導とする。

『コロナ感染予防対策について』

- ・コロナウイルスに感染した場合は発症日、翌日から5日間を経過しない選手は出場できない。5日目に症状が続いていた場合は熱が下がり、痰や喉の痛みなどの症状が軽快して24時間が経過するまでは出場を控えてもらうこととした。
- ・濃厚接触が疑われる場合は抗原検査で陰性を確認し大会に出場してもらうこととした。
- ・健康観察表の提出は不要とする。
- ・観客の制限は設けない。

【議題3】 その他

- ・健康やわら体操は実施しないこととした。

以 上



『北九州はでたんいいとこちゃ』

九州医療スポーツ専門学校
柔道整復学科 社 由洋

【はじめに】

九州医療スポーツ専門学校は北九州市小倉北区の中心部に位置する魅力的な街です。このエリアには、豊かな自然と歴史的な文化、そして多彩な観光スポットがあるため、観光客にとっても魅力的なスポットとなっています。



①【小倉城】

九州医療スポーツ専門学校から徒歩5分、小倉駅からは徒歩10分程度で訪れることが可能です。戦国時代の歴史を物語る城であり、現在は天守閣や城内の広場が公開されています。特に、桜の名所として有名で、毎年春には多くの観光客が訪れます。

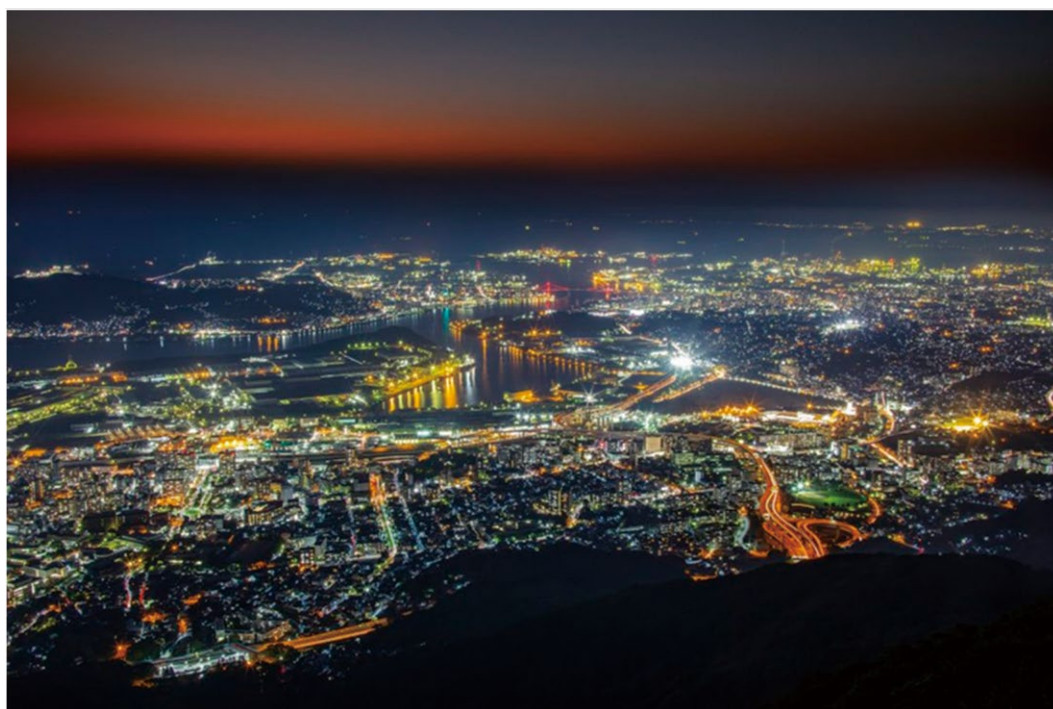
②【皿倉山】

八幡東区にある皿倉山は、標高534mの山で、周辺には美しい自然が広がります。山頂からは市内や海を一望でき、ハイキングやトレッキング、自然散策などのアウトドアアクティビティが楽しめます。また、山麓には温泉やキャンプ場もあり、四季を通じて多くの人々に愛されるスポットとなっています。

北九州市の皿倉山から眺める夜景は、市内を一望できる絶景です。山頂に立つと、北九州市内の明かりが美しく輝き、その景色はとてもロマンチックで魅力的です。また、冬の時期には特に空気が澄んでおり、夜空には星座や流れ星を観察することもできます。夜の皿倉山は、都会の喧騒を忘れ、大自然に包まれた贅沢な時間を過ごせる場所です。

2023年3月、北九州市が「日本新三大夜景都市」に1位で再認定されました。

☆1位北九州市、2位札幌市、3位長崎市☆



③【門司港レトロ地区】

明治時代から大正時代にかけての建築物が多く残っており、レトロな雰囲気が漂います。飲食店や土産物屋も多く、観光客には大変人気のあるエリアとなっています。【焼きカレーやバナナのたたき売り】が有名です。



【おすすめの食べ物】

【ぬかみそ炊き】は北九州の郷土料理

【焼うどん】鳥町商店街の『だるま堂は焼うどんの発祥の地』としても有名

【八幡ぎょうざ】は日本三大餃子の1つ《宇都宮、浜松、八幡》

【小倉肉うどん】通称〰どきどきうどん、も北九州・小倉の名物料理



【最後に】

北九州市は、福岡市にもアクセスしやすく、小倉駅から新幹線15分程度での移動が可能なことは北九州を訪れる人にとっても魅力的です。

北九州小倉北区は、自然や文化、工業など様々な魅力がありますが、何よりも人々の暖かさやおもてなしの心があることが、最大の魅力です。北九州にお越しの際は時間の許す限り、素敵な時間をお過ごしください。

★第3回★ 教員紹介リレー



『わぐち』奮闘記

呉竹学園 臨床教育研究センター
マネージャー 川口 央修

～ 柔道との出会い ～

今では考えられないくらいに、小柄でガリガリだった幼少期の「わぐち（一番長く呼ばれてきたあだ名）」は、東京都下の保谷市（現西東京市）で生まれました。幼少期の「わぐち」は生まれながらに扁桃が肥大していたため、風邪をひくと高熱を発するので、日課が病院通いという生活を送っておりました。当然「前に倣え」では手を腰に当てる役割で、腕を伸ばすことの出来ないチビッコ小学生でした。

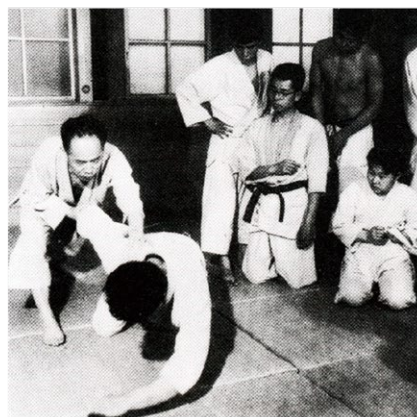
毎日の病院通いで、友達と遊ぶ機会の少ない「わぐち」を心配した母親は、近所の柔道教室に通わせるようになります。通い始めた頃には道着もブカブカなので、強く結ばれた紐を解くことが出来ずに、「お漏らし」をしてしまったり、小学校でも柔道場でも全くもってイケてないダメダメな毎日でした。しかしながら、この道場が閉鎖してしまう小学校4年生頃には、柔道の稽古のおかげで病院通いも少なくなり、受け身のおかげで大きな怪我もなく、毎日のように自転車にプラスチックのバットとゴムボールを挟み、仲間を捜しては隣町まで遠征し、草野球に打ち込む日々を送れるようになります。



～ 初めての柔道着 ～



～ 開設当初の東京高等鍼灸医学校（現：東京医療専門学校）と
柔道整復科の様子 ～



～ 柔道との再会 ～

中学校へ進学した頃の「わぐち」は、ソコソコの体格となり、整列では腕を伸ばせるようになりました。保谷市から練馬区へ転校した中学校でも、大好きな野球を続けたかったのですが、その中学校には野球部がなく、昔取った杵柄から、柔道部へ入部することにな

ります。この柔道部は顧問の先生がとても厳しく、ダラダラと稽古をしているとテニスのラケットが壊れるほど殴られたり、怒鳴り声とともに鉄アレイが飛んできたり、今では考えられないくらいスパルタのため、上級生のほとんどが辞めてしまうほどでした。しかしながら、毎日の厳しい稽古のおかげで、少数精鋭な状況下でも、常に地域で上位入賞を果たす強豪校でもありました。

この厳しい環境下でも、顧問が登場する16：30までは自由時間です。厳しい稽古が始まるまでの「わぐち」は同級生の岡村（現大川学園医療福祉専門学校）と、当時の流行だったプロレスごっこでいろいろな技の掛け合いを楽しんでおりました。この時間も無駄にせず稽古に打ち込んでいれば、もっと良い成績を残せたのですが、都大会では弦巻二中（講道学舎の生徒が在籍）と対戦した時点で順位が決まってしまうのが常でした。

～ 柔道整復師を志すまで ～

高等学校へ進学した「わぐち」は、今でこそ短髪なのに坊主頭を敬遠して「柔道部」や「野球部」への入部を拒み、髪型が自由な少林寺拳法部に入部します。この少林寺拳法部は新規参入の部活で、部室や道場もなく、校庭で日々稽古を行っておりました。なので、地域の空手道場に通っていて不規則にしか現れない経験豊かな上級生もいれば、未経験でも真面目に毎日現れる上級生と新入生もいて、顧問は頻繁には現れないため、厳しい柔道部を経験して、ある程度の体格に手に入れていた「わぐち」は次第に前者の先輩のように、区民体育館での筋トレとギターの練習に打ち込む毎日を送るようになり、1年足らずで幽霊部員となっていきました。そして気がついたときにはノホホ～ンとした大学生になっておりました。

時はバブル景気最盛期で、同級生のほとんどがデザイナーズブランドの服を身に纏い、自分専用のスポーツカーをも所有しており、風呂なし・共同トイレ生活の出身者である「わぐち」にはアルバイトの掛け持ちをしても、とても一緒に遊ぶことが出来ません。疎外感を感じながらの学生生活の中で、「わぐち」は厳しくも楽しかった柔道部時代を思い出すことが増えてきます。特に昇段審査の直前に、痛めた膝とアキレス腱を何とか試合までに回復させるために、通った接骨院の治療のおかげで、黒帯を取得することが出来た経験から、漠然と「スポーツに携わる仕事」を志すようになり、接骨院が柔道の名称を冠する、柔道整復師の従事する施術所であることを知り、次第に「柔道整復を生涯の仕事にしたい」との思いが募るようになりました。しかし、柔道整復科に入学するには更に歳月を要するのでした。

～ 念願の柔道整復科に入学 ～

やっとの思いで入学した呉竹学園夜間部の柔道整復科は柔道経験者こそ若干名でしたが、ギラギラした目付きの野心の塊の輩の集いのようなクラスでした。先に鍼灸マッサージ師の資格を取得していた「わぐち」は、午後のギリギリまで整形外科で診療の補助に従事し、

2年間の代々木校舎と隔週は講道館へと通学することになりました。今現在では同級生の大多数が開業し、私のような教職に従事しているものはほとんどおりませんが、当時は毎年の卒業生も全国で1000人程度であり、開業後の過当競争はほとんどない、古き良き時代でもありました。

当然、柔道整復師になった「わぐち」も自身の接骨院を開院することが最終目標であり、しばらく経験を積んだ後に開業の機会を伺う予定でしたが、お世話になった恩師のお誘いもあり、卒業後半年ほどで呉竹学園の一員とさせていただくことになりました。



～ 東京医療専門学校 四ツ谷校舎と代々木校舎 ならびに 卒業式の一コマ ～

～ 呉竹学園での任務 ～

現理事長のご母堂様より寛大なご配慮をいただき、「わぐち」が入職させていただいた呉竹学園は、当時から鍼灸界の東大と呼ばれ、大多数の教師陣は高学歴だったり、他の医療系専門資格を併せ持つハイキャリアな方が多く、「わぐち」などが直ぐに役に立てる仕事は何一つありません。ある先生からは「あなたは（恩師の先生が）数多くの講義が出来るように、付属施術所の留守番だけしてなさい。」と言われ、専科教員講習会の受講資格が得られるまでの間、先ずは近隣の方々への施術が主な仕事となりました。しかしながら、施術所業務の中で、当時は手作業が主であったレセプト作業に、早くもPCを導入しており、レセプト用ソフトの開発も兼ねたモニターをしていたことから、この作業を通してPCのスキルが培われるようになりました。また非常勤講師の整形外科医からは、著名なアスリーの試合までのコンディショニングをご用命いただき、「わぐち」の初心である「スポーツに携わる仕事」として、柔道整復の関わり方を実践する機会を得ることも出来ました。この整形外科医は、アスリートに対してメスを入れるのは最後の手段であるのが信条で、幸運にも出来る限りの非観血的療法をご推奨いただいたため、そのニーズに応えるために色々と試行錯誤しながら、何とか試合までに間に合わせる作業を担当させていただきました。また、学会における発表の方式をも手ほどきしていただき、情報発信していくことの重要性をご教授いただきました。更に当時の東京校の故大森校長からは、連日の深夜に及び隔々まで、論文をご添削くださり、とてつもなく丁寧な書き方のご指導をいただいたことは、ノンキャリアの「わぐち」にとって、とても大きな財産となりました。

～ 専教会の受講 ～

早いもので入職から3年の月日が流れ、いよいよ専科教員講習会受講の年がやってきました。しかしながら、前年度に東京で講習会が開催されたので、「わぐち」が受講できる年度には東京では開催されないことになり、翌年以降も開催されとは限らないため、更に受講まで1年以上要する可能性が高くなってしまいました。やはり「わぐち」は教職というものには縁がないのかなと感じながらも、当時の理事長である現理事長のご貴兄より、「今年は中部柔整（現米田柔整専門学校）さんで開催されることになったから、週末に名古屋に行って受講しなさい。」との指令が発動されます。このようなお取り計らいで、7月から2月までの8か月にわたる専科教員講習会の受講が始まります。今回の専教会は名古屋開催でもあることから、初めて拝聴する内容の講義がほとんどで、更に講義終了後には名古屋大学に移動して解剖実習もあり、毎回とても充実した内容でした。また医療機関が併設されているため、最新の画像診断装置を用いた整形外科診療や卒業生の研修制度には目を瞠るばかりでした。

～ 専科教員資格取得後の教務 ～

名古屋開催の専教会では当時の教職員の先生方や同窓生に多大なるお世話になり、名古屋グルメも堪能させていただきながら、名残惜しくもあっという間に終了してしまいました。

早速、その翌年度から講義を担当することになった、「わぐち」は柔道整復科の教務に異動となります。当時の柔整科教務は学生の成績管理などを鍼灸科に依存しており、完全なお荷物状態でした。講義はさておき、まずは柔整科の教務を独立させることが、「わぐち」に課せられた最初の仕事でした。ここで、レセプト作業で培ったPCでの経験が役に立ちます。成績管理ならびに出席管理や備品・消耗品管理などを、マクロ機能を活用したPC上で管理するシステムを構築することで、多くの煩雑な手作業を少なくすることが出来ます。完全なシステムになるには数年を要しましたが、学籍から衛生材料の在庫まで柔整科で独立した管理が可能となりました。

平行しての講義は専教会で培った内容を盛り込みながら準備をするのですが、当時の教務では講義準備は勤務時間内には行っってはならないという暗黙の了解があり、次第に自転車操業の感が否めなくなります。しかしながら、当時はまだまだ体力があったので、講義前日は徹夜することで準備を賄う日々が、その後数年は続くことになりました。また当時の学生はとても質が高く、教科書に載っている内容をそのまま講義しても、誰一人として聴いてはくれません。教科書に載っていないような臨床的な内容を盛り込むことで、初めて耳を傾けてくれます。特に柔道整復では活用が許されていませんが、X線画像などの読影は臨床的な内容を講義する際には避けて通れません。そこで、お世話になった整形外科医の先生方にも読影方法のご指導をいただくのですが、整形外科の先生方も医局に入っからの先輩方からの経験的指導で読影を身に付けており、画像の系統的な学習方式までは

あまり詳しくはありません。「わぐち」は医用画像の根本的な仕組みについて理解する必要性を感じていくようになります。

～ 東京校から新横浜校そして大宮校へ ～

その後の「わぐち」は本学の教員養成課程でも学ばせていただき、鍼灸マッサージ科でも解剖学や臨床医学総論などの講義も担当させていただくことになります。更には診療放射線技師の資格を取得し、気づいたら既に名古屋での専教会終了後から12年の歳月が流れていました。この時期から将来的な大宮校設立のプロジェクトにも参加させていただくことになり、その準備を兼ねて「わぐち」は新横浜校に赴任いたしました。東京校とは異なる歴史を持つ、呉竹学園を体験させていただき、小規模ながらも各科と事務が一丸となり、色々な難局を打開していく一体感を、大宮校のエッセンスに取り入れながら、新設校の立ち上げ事業に携わっていきました。その大宮校では、国家試験合格に向けた必要最小限のカリキュラムと、こんなことも学んでおいたら臨床現場で有利かと考えられる最大限のカリキュラムを用意し、各々を夜間部と全日制に振り分け、更に任意で受講できる選択科目も用意しました。その全日制のカリキュラムは後に教育課程編成委員会による改定案の素案となります。



～ 呉竹鍼灸柔整専門学校（新横浜校）～



～ 呉竹医療専門学校（大宮校）～

万全の準備をしたつもりで、大宮校は新規開設校として学生募集に臨みましたが、あまり反応は芳しくありません。開設年度は夜間部こそ定員を満たしましたが、全日制は惨憺たる結果でした。やはり新卒の学生を集めるには、近隣の高等学校に認知していただくための地道な営業活動が必要でした。そこで教務と事務で交互に足繁く高校訪問を続けることで、何とか3年後の完成年度には新入生の定員を満たすことが出来ました。また、その年度末の国家試験では1期生が全員合格という嬉しい結果となりました。そして「わぐち」はその後10年間担当した大宮校柔道整復科から、呉竹学園法人本部に所属する臨床教育研究センターに異動となります。



～ 日本柔道整復接骨医学会 シンポジウム「柔道整復医療の最前線」～

～ 臨床教育研究センターのマネージャーとして ～

2019年度には遂に新カリキュラムが導入され、臨床実習が4単位に増えることになりました。呉竹学園の柔道整復科でも今後の多職種連携を視野に入れた医療機関や介護施設などへの外部臨床実習（以下：臨地実習）も実施することになります。また次のカリキュラム改定では更に臨床実習の単位数は増加される可能性が高いとの憶測もあり、呉竹学園3校の卒業アウトカム（達成すべき指標）に呼応した臨地実習施設の拡充に努めながらも、学内臨床実習の充実を目的に支援・管理・統括する部署が必要とされ、臨床教育研究センターが設立されました。

臨床教育研究センターのコンピテシー（行動特性）は以下の通りです。

- ①現状把握：呉竹学園3校に、各々のデュプロマポリシー（卒業認定方針）に応じた臨地実習施設が過不足無く整備され、臨床実習も十分に提供できているかを調査する。
- ②管理支援：各校の現状に応じて、臨地実習施設を開拓し、施設の適正を吟味ならびに指導者講習の受講などの準備を各校の科長・実習調整者と連携して滞りなく遂行する。
- ③教育支援：臨地実習ならびに臨床実習が、ラーニングアウトカムズ（身に付けるべき能力）に適合していくために必要なCSR（共通報告基準）を維持できるように学習機会の提供や情報を発信する。
- ④企画運営：臨地実習施設の企業説明や学生の就職活動ならびに各校の公開講座などを有機的に活用できるように提案しながら、学園と臨地実習施設が営利面で不具合の無い実習活動を運営する。

従来の柔道整復の業務である外傷の応急処置に加えて、将来的に地域包括ケアでのタスクシフト（医師の業務集中への回避）が導入された場合、整形外科での治療と患者間における満足度のギャップを埋める施術が柔道整復に求められてくると考えられます。国民医療費低減の観点からも軟部組織損傷に対するエビデンスに基づいた定型的施術法のガイドラインの策定や高齢者の運動機能維持に向けた予防的トレーニングを柔道整復が担当する可能性があり、本学で研究を継続中でもある、超音波観察装置による受傷部位の解析に基づく精度の高い施術方式の確立ならびに高齢者の運動機能に関しては、筋断面厚と重心動揺との相関による作用筋発達度から導き出した運動機能維持トレーニング方式の確立に努

めるなどの業務に直結した研究活動によりエビデンスを構築することなども臨床教育研究センターの担う課題となりました。

そして気がつく「わぐち」も定年まで残り3年となりました。この様な「ろくでなし」の「わぐち」を辛抱強く雇用していただいた、現理事長の坂本 歩 先生に感謝申し上げるとともに、次世代に向けた学園の理想と発展に少しでも応えるべく、残り少ない日々を精進していくつもりです。

最後に「わぐち」の「夢」は、古き良き日本のように柔道教室を併設した施術所で、柔道の普及とともに柔道整復の技術を活かしながら、それが異国の地であっても、残り少ない余生を柔道整復師として過ごしていくことにあります。これからも「わぐち」は、柔道整復の需要と可能性を信じて、普及していくことを生涯の仕事にしたいと思います。

長々と長文にお付き合いいただきありがとうございました。今暫くの間ではありますが、先生方におかれましては、変わらぬお付き合いを賜りますよう、何卒宜しく願いいたします。

～ 次回は… ～

西巻先生とは、教科書委員会で同じ部位を分担執筆させていただいたご縁もあり、過分なるご紹介のバトンをいただきました。そして何とか落とすことなく次へと引き継ぐことが出来そうです。奇しくも本文中にご登場いただいた大川学園医療福祉専門学校の 岡村 忠彦 先生が、私の無茶振りをお引き受けいただいたようです。ご縁とは不思議なもので、私と違って学業も柔道もエリートコースを驀地の岡村先生ですが、再びお互いに柔道整復の教育に携わるという接点を持つことになりました。全く異なる経緯をたどって、この道を進むことになった、岡村先生の俯瞰的視点から見た柔道整復に対する提言には、学ぶべきことが多々あると感じております。西巻先生以降、同級生シリーズが3回目へと続くことになりますが、年寄りの戯言と思って、温かくお見守り賜りますよう、よろしくお願いいたします。

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

正 会 員 校 要 覧

令和5年4月1日現在

都道府県		学 校 名	所 在 地	TEL FAX
北海道 2校	1	公益社団法人 北海道柔道整復師会 附属北海道柔道整復専門学校	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西18-1-15	011-642-0731 011-642-8455
	2	学校法人 滋慶学園 北海道ハイテクノロジー専門学校	〒061-1396 北海道恵庭市恵み野北2-12-1	0123-36-8119 0123-33-2234
岩手県 1校	3	学校法人 龍澤学園 盛岡医療大学校	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通3-3-4	019-652-1189 019-652-1198
宮城県 2校	4	学校法人 東北柔専 仙台接骨医療専門学校	〒983-0005 宮城県仙台市宮城野区福室3-4-16	022-258-6222 022-259-7511
	5	学校法人 赤門宏志学院 仙台赤門医療専門学校	〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻青葉33-1	022-222-8349 022-222-3797
福島県 1校	6	学校法人 平成医療学園 福島医療専門学校	〒963-8026 福島県郡山市並木3-2-23	024-933-0808 024-933-7887
群馬県 1校	7	学校法人 国際中央学園 中央スポーツ医療専門学校	〒371-0843 群馬県前橋市新前橋町21-16	027-253-1205 027-253-1230
埼玉県 2校	8	学校法人 大川学園 大川学園医療福祉専門学校	〒357-0016 埼玉県飯能市下加治345	042-974-8880 042-974-8884
	9	学校法人 呉竹学園 呉竹医療専門学校	〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-185-1	048-658-0001 048-658-0005
東京都 11校	10	学校法人 花田学園 日本柔道整復専門学校	〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町20-1	03-3461-4740 03-3461-4733
	11	学校法人 呉竹学園 東京医療専門学校	〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町16-12	03-3341-4043 03-3358-3976
	12	学校法人 敬心学園 日本医学柔整鍼灸専門学校	〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-18-18	03-3208-7741 03-3208-6488
	13	学校法人 エイジェック学園 スポーツ健康医療専門学校	〒130-0026 東京都墨田区両国4-27-4	03-3846-5151 03-3846-5152
	14	学校法人 滋慶学園 東京メディカル・スポーツ専門学校	〒134-0088 東京都江戸川区西葛西3-1-16	03-5605-2930 03-5605-2932
	15	学校法人 片柳学園 日本工学院八王子専門学校	〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404-1	042-637-3111 042-637-3112
	16	学校法人 創志学園 日本健康医療専門学校	〒111-0053 東京都台東区浅草橋3-31-5	03-5835-1456 03-5835-1457
	17	学校法人 都築科学学園 関東柔道整復専門学校	〒190-0012 東京都立川市曙町1-13-13	042-529-6660 042-529-6665
	18	学校法人 小倉学園 新宿医療専門学校	〒160-0017 東京都新宿区左門町5番地	03-3352-6811 03-3352-6816
	19	学校法人 西田学園 アルファ医療福祉専門学校	〒194-0022 東京都町田市森野1-7-8	042-729-1026 042-721-8411
	20	学校法人 常陽学園 東京医療福祉専門学校	〒104-0032 東京都中央区八丁堀1-11-11	03-3551-5751 03-3551-5752
神奈川県 1校	21	学校法人 呉竹学園 呉竹鍼灸柔整専門学校	〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2-7-24	045-471-3731 045-471-3732
静岡県 1校	22	学校法人 森島学園 専門学校浜松医療学院	〒434-0038 静岡県浜松市浜北区貴布祢232-3	053-585-1333 053-585-1661

都道府県		学 校 名	所 在 地	TEL FAX
愛知県 3校	23	学校法人 米田学園 米田柔整専門学校	〒451-0053 愛知県名古屋市西区枇杷島2-3-13	052-562-1210 052-563-6495
	24	学校法人 滋慶コミュニケーションアート 名古屋医健スポーツ専門学校	〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄3-20-3	052-238-3455 052-238-3465
	25	学校法人 葛谷学園 中和医療専門学校	〒492-8251 愛知県稲沢市東緑町1-1-81	0587-23-5235 0587-23-5237
石川県 1校	26	学校法人 木島学園 北信越柔整専門学校	〒920-0816 石川県金沢市山の上町5番5-2号	076-252-2171 076-252-2177
京都府 1校	27	学校法人 滋慶コミュニケーションアート 京都医健専門学校	〒604-8203 京都府京都市中京区衣棚町51-2	075-257-6507 075-257-6488
大阪府 7校	28	学校法人 関西医療学園 関西医療学園専門学校	〒558-0011 大阪府大阪市住吉区荻田6-18-13	06-6699-2222 06-6609-2118
	29	学校法人 明治東洋医学院 明治東洋医学院専門学校	〒564-0034 大阪府吹田市西御旅町7-53	06-6381-3811 06-6381-3800
	30	学校法人 平成医療学園 平成医療学園専門学校	〒531-0071 大阪府大阪市北区中津6-10-15	06-6454-1500 06-6454-1550
	31	学校法人 森ノ宮医療学園 森ノ宮医療学園専門学校	〒537-0022 大阪府大阪市東成区中本4-1-8	06-6976-6889 06-6973-3133
	32	学校法人 履正社 履正社国際医療スポーツ専門学校	〒532-0024 大阪府大阪市淀川区十三本町3-4-21	06-6305-6592 06-6305-1692
	33	学校法人 近畿医療学園 近畿医療専門学校	〒530-0047 大阪府大阪市北区西天満5-3-10	06-6360-3003 06-6360-3022
	34	学校法人 大阪滋慶学園 東洋医療専門学校	〒532-0004 大阪府大阪市淀川区西宮原1-5-35	06-6398-2255 06-6398-2225
兵庫県 1校	35	学校法人 神戸創志学園 関西健康科学専門学校	〒659-0065 兵庫県芦屋市公光町1-18	0797-22-7221 0797-22-9333
岡山県 1校	36	学校法人 朝日医療学園 朝日医療大学校	〒700-0026 岡山県岡山市北区奉還町2-7-1	086-255-2000 086-255-2010
広島県 1校	37	学校法人 I G L 学園 I G L 医療福祉専門学校	〒731-3164 広島県広島市安佐南区伴東1-12-18	082-849-5001 082-849-5115
香川県 1校	38	学校法人 大麻学園 四国医療専門学校	〒769-0205 香川県綾歌郡宇多津町浜五番丁62-1	0877-41-2320 0877-41-2322
愛媛県 1校	39	学校法人 河原学園 河原医療福祉専門学校	〒790-0014 愛媛県松山市柳井町3-3-13	089-946-3388 089-946-4555
福岡県 4校	40	学校法人 福岡医療学院 福岡医療専門学校	〒814-0005 福岡県福岡市早良区祖原3-1	092-833-6120 092-833-6516
	41	学校法人 滋慶学園 福岡医健・スポーツ専門学校	〒812-0032 福岡県福岡市博多区石城町7-30	092-262-2119 092-262-8669
	42	学校法人 都築学園 福岡天神医療リハビリ専門学校	〒810-0004 福岡県福岡市中央区渡辺通4-3-7	092-738-7823 092-738-8584
	43	学校法人 国際学園 九州医療スポーツ専門学校	〒802-0077 福岡県北九州市小倉北区馬借1丁目1-2	093-531-5331 093-531-5332
佐賀県 1校	44	学校法人 九州アカデミー学園 九州医療専門学校	〒841-0027 佐賀県鳥栖市松原町1709-2	0942-81-3131 0942-81-3154
沖縄県 1校	45	学校法人 松正学園 専門学校沖縄統合医療学院	〒901-2132 沖縄県浦添市伊祖4丁目1番-19号	098-875-8377 098-875-8366
合 計		45校		

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

学校理事長・校長・正会員名簿

令和5年6月1日現在

都道府県		学 校 名	理事長	校 長	正会員
北海道 2校	1	公益社団法人 北海道柔道整復師会 附属北海道柔道整復専門学校	高山 訓正	加藤 貞利	高山 訓正
	2	学校法人 滋慶学園 北海道ハイテクノロジー専門学校	浮舟 邦彦	佐藤 俊	早坂 正利
岩手県 1校	3	学校法人 龍澤学園 盛岡医療大学院	龍澤 正美	鈴木 一幸	栗島 秀行
宮城県 2校	4	学校法人 東北柔専 仙台接骨医療専門学校	島谷 剛美	島谷 夕美	島谷 夕美
	5	学校法人 赤門宏志学院 仙台赤門医療専門学校	坂本 正憲	安齋 昌弘	坂本 正憲
福島県 1校	6	学校法人 平成医療学園 福島医療専門学校	岸野 雅方	飯島 正治	岸野 雅方
群馬県 1校	7	学校法人 国際中央学園 中央スポーツ医療専門学校	中島 利郎	林 康宏	中島 利郎
埼玉県 2校	8	学校法人 大川学園 大川学園医療福祉専門学校	奥村 千秋	平澤 淳	平澤 淳
	9	学校法人 呉竹学園 呉竹医療専門学校	坂本 歩	齊藤 秀樹	八亀俊一郎
東京都 11校	10	学校法人 花田学園 日本柔道整復専門学校	櫻井 康司	櫻井 康司	櫻井 康司
	11	学校法人 呉竹学園 東京医療専門学校	坂本 歩	村上 哲二	齊藤 秀樹
	12	学校法人 敬心学園 日本医学柔鍼灸専門学校	小林 光俊	奥田 久幸	奥田 久幸
	13	学校法人 エイジェック学園 スポーツ健康医療専門学校	石原 征二	桑原 淳	桑原 淳
	14	学校法人 滋慶学園 東京メディカル・スポーツ専門学校	浮舟 邦彦	関口 正雄	関口 正雄
	15	学校法人 片柳学園 日本工学院八王子専門学校	千葉 茂	山野 大星	千葉 茂
	16	学校法人 創志学園 日本健康医療専門学校	増田 哲也	清宫 克幸	大橋 博
	17	学校法人 都築科学学園 関東柔道整復専門学校	都築 慶子	都築 稔	都築 稔
	18	学校法人 小倉学園 新宿医療専門学校	小倉 基義	小倉 芳裕	永野 修
	19	学校法人 西田学園 アルファ医療福祉専門学校	西田 忠康	瀧 将仁	瀧 将仁
	20	学校法人 常陽学園 東京医療福祉専門学校	渡邊 賢二	殿村 康一	殿村 康一
神奈川県 1校	21	学校法人 呉竹学園 呉竹鍼灸柔整専門学校	坂本 歩	坂本 歩	村上 哲二
静岡県 1校	22	学校法人 森島学園 専門学校浜松医療学院	森島 康之	遠藤 進	森島 康之

都道府県		学 校 名	理事長	校 長	正会員
愛知県 3校	23	学校法人 米田学園 米田柔整専門学校	米田 忠正	山本 啓司	米田 忠正
	24	学校法人 滋慶コミュニケーションアート 名古屋医健スポーツ専門学校	近藤 雅臣	久保田 一	竹本 雅信
	25	学校法人 葛谷学園 中和医療専門学校	楠本 高紀	清水 洋二	清水 洋二
石川県 1校	26	学校法人 木島学園 北信越柔整専門学校	碓井 貞成	碓井 貞成	碓井 貞成
京都府 1校	27	学校法人 滋慶コミュニケーションアート 京都医健専門学校	近藤 雅臣	小林 哲夫	竹本 雅信
大阪府 7校	28	学校法人 関西医療学園 関西医療学園専門学校	武田 大輔	武田 大輔	廣岡 聡
	29	学校法人 明治東洋医学院 明治東洋医学院専門学校	谷口 和彦	三澤 圭吾	谷口 和彦
	30	学校法人 平成医療学園 平成医療学園専門学校	岸野 雅方	北野 吉廣	北野 吉廣
	31	学校法人 森ノ宮医療学園 森ノ宮医療学園専門学校	清水 尚道	清水 尚道	清水 尚道
	32	学校法人 履正社 履正社国際医療スポーツ専門学校	金谷 等	池尾 忠思	田中 雅博
	33	学校法人 近畿医療学園 近畿医療専門学校	小林 英健	清原 伸彦	坂本 博
	34	学校法人 大阪滋慶学園 東洋医療専門学校	浮舟 邦彦	太田 宗夫	古谷 圭司
兵庫県 1校	35	学校法人 神戸創志学園 関西健康科学専門学校	岡田 典世	住田 行志	岡田 典世
岡山県 1校	36	学校法人 朝日医療学園 朝日医療大学校	津島 伸章	草地 清志	津島 伸章
広島県 1校	37	学校法人 I G L 学園 I G L 医療福祉専門学校	永見 憲吾	本廣 淳範	本廣 淳範
香川県 1校	38	学校法人 大麻学園 四国医療専門学校	大麻 正晴	後藤 修司	大麻 正晴
愛媛県 1校	39	学校法人 河原学園 河原医療福祉専門学校	河原 成紀	越智 節也	水野 晋悟
福岡県 4校	40	学校法人 福岡医療学院 福岡医療専門学校	藤瀬 武	藤瀬 武	藤瀬 武
	41	学校法人 滋慶学園 福岡医健・スポーツ専門学校	浮舟 邦彦	古谷野 潔	古谷野 潔
	42	学校法人 都築学園 福岡天神医療リハビリ専門学校	都築 仁子	大川 照明	大川 照明
	43	学校法人 国際学園 九州医療スポーツ専門学校	水嶋 章陽	赤木 恭平	水嶋 章陽
佐賀県 1校	44	学校法人 九州アカデミー学園 九州医療専門学校	門司 誠一	井上 勇介	門司 誠一
沖縄県 1校	45	学校法人 松正学園 専門学校沖縄統合医療学院	松浦 幸男	鈴木 信司	鈴木 信司

賛助会員名簿

賛助会員団体名	代表者氏名	住 所	電話番号
株式会社南江堂	代表取締役社長 小 立 健 太	〒113-8410 文京区本郷3-42-6	03-3811-7140
医歯薬出版株式会社	代表取締役社長 白 石 泰 夫	〒113-8612 文京区本駒込1-7-10	03-5395-7616

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 教育支援委員会教科書部会 名簿

令和5年4月1日より令和7年3月31日まで

令和5年4月1日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	呉竹医療専門学校	校長	齊藤 秀樹
部会長	明治東洋医学院専門学校	校長	三澤 圭吾
部員	仙台接骨医療専門学校	教頭	佐藤 真希
部員	福島医療専門学校	教務部長	齊藤 慎吾
部員	中央スポーツ医療専門学校	専任教員	安海 弘晃
部員	スポーツ健康医療専門学校	副学科長	淵ノ上真太郎
部員	専門学校浜松医療学院	学科長	錦織 輝礼
部員	米田柔整専門学校	教員	生駒 慎二
部員	朝日医療大学校	学科長	大隅 力
部員	河原医療福祉専門学校	教頭	鈴 武利
部員	福岡医健・スポーツ専門学校	専任教員	水元 宏哉
部員	九州医療専門学校	学科長	塚本 直太

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 教育支援委員会教員研修等部会 名簿

令和5年4月1日より令和7年3月31日まで

令和5年4月1日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	日本体育大学保健医療学部	教授	伊藤 譲
副部会長	森ノ宮医療学園専門学校	教員	葉山 直史
部員	北海道ハイテクノロジー専門学校	教員	瀧ヶ平隆一
部員	日本工学院八王子専門学校	教員	青木 伊之
部員	関東柔道整復専門学校	学科長代理	加藤 稔啓
部員	北信越柔整専門学校	理事長・校長	碓井 貞成
部員	東洋医療専門学校	副学科長	山田 靖典
部員	四国医療専門学校	専任教員	四宮 英雄
部員	九州医療スポーツ専門学校	教務部長	桑野 幸仁
部員	専門学校沖縄統合医療学院	教員	登崎 正行

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 教育支援委員会専科教員認定講習部会 名簿

令和5年4月1日より令和7年3月31日まで

令和5年4月1日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	日本体育大学保健医療学部	教授	伊藤 譲
部会長	呉竹医療専門学校	臨床教育研究センター マネージャー	川口 央修
副部会長	平成医療学園専門学校	校長	北野 吉廣
部員	日本柔道整復専門学校	教務副部長	山口 竜彦
部員	日本健康医療専門学校	専任教員	新才 博紀
部員	新宿医療専門学校	専任教員	春日 貴之
部員	明治東洋医学院専門学校	校長	三澤 圭吾
部員	近畿医療専門学校	副校長	上野 雅洋

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 教育支援委員会柔道整復師国家試験模擬試験部会 委員名簿

令和5年4月1日より令和7年3月31日まで

令和5年4月1日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	呉竹医療専門学校	校長	齊藤 秀樹
部会長	東京医療専門学校	学科長	杉山 直人
副部会長	明治東洋医学院専門学校	教務課長	秋津 知宏
副部会長	滋慶学園グループ	国家試験対策センター長	稲岡 隆輔
部員	附属北海道柔道整復専門学校	教務主任	野崎 享
部員	東京メディカル・スポーツ専門学校	科長	小関 孝男
部員	呉竹鍼灸柔整専門学校	科長	田中 秀和
部員	中和医療専門学校	学科長補佐	太田 康晴
部員	関西医療学園専門学校	学生部長補佐	林 竜也
部員	履正社国際医療スポーツ専門学校	学科長補佐	桃井 俊明
部員	四国医療専門学校	学科主任	鹿庭 祥平

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 広報・調査委員会 委員名簿

令和5年4月1日より令和7年3月31日まで

令和5年4月1日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	四国医療専門学校	副理事長	大麻 正晴
委員長	東京医療専門学校	事務長補佐	廣木 智
副委員長	四国医療専門学校	学科主任	鹿庭 祥平
委員	仙台接骨医療専門学校	教頭	佐藤 真希
委員	仙台赤門医療専門学校	専任教員	亀井 啓
委員	日本医学柔整鍼灸専門学校	専任教員	片橋 るみ
委員	関西医療学園専門学校	次長	徳田 明也
委員	森ノ宮医療学園専門学校	教員	小笠原宏之
委員	関西健康科学専門学校	教員	宮崎 香織

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 柔道委員会 委員名簿

令和5年4月1日より令和7年3月31日まで

令和5年4月1日より

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	関西医療学園専門学校	副校長	廣岡 聡
委員長	東京医療専門学校	科長補佐	早川 幸秀
副委員長	京都医健専門学校	副校長	湊谷 知幹
委員	北海道柔道整復専門学校	教員	筒井 寛幸
委員	日本柔道整復専門学校	教員	赤羽 泰彦
委員	名古屋医健スポーツ専門学校	副校長	米女 博司
委員	I G L医療福祉専門学校	学科長	埜 義徳

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 組織運営委員会 委員名簿

令和5年4月1日より令和7年3月31日まで

令和5年4月1日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	履正社国際医療スポーツ専門学校	副校長	田中 雅博
委員長	明治東洋医学院専門学校	事務局長	藤井 義巳
副委員長	履正社国際医療スポーツ専門学校	副学科長	辻井 宏昭
委員	盛岡医療大学校	教務部長 兼学科長	松岡 靖
委員	大川学園医療福祉専門学校	学科長	霞 孝行
委員	アルファ医療福祉専門学校	学科長	鈴木 忠慶
委員	東京医療福祉専門学校	学科長	伊藤 浩二
委員	福岡医療専門学校	副校長	藤瀬 正
委員	福岡天神医療リハビリ専門学校	学科長	小川 勝

編集後記

メールやラインに代表される電子媒体による伝達方法が進み、手紙をしたためる機会が少なくなくなりつつある。

過去に自分に届いた手紙を読み返してみると、「ご無沙汰しております。つつがなくお暮らしてでしょうか。」とか「こちらはつつがなく暮らしておりますので、ご心配なさらないでください。」等々、あらたまった挨拶文のあちらこちらに、「つつがなく」という言い方が用いられている。

ところで、この「つつがない」を漢字で表すと「恙ない」となる。中国では「恙」は災いや病を意味するもので、したがって「恙が無い」は「災いがない」、「問題がない」という意味になる。これは医療関係者の間ではちょっとした有名な話で、ひょっとしたら、学生時代に病理や衛生等の講義で先生に説明を受けた覚えがある方も多いかもしいが、「ツツガムシ病」、「恙虫病」の語源である。したがって、恙虫病は災いをもたらす虫の病気という意味になる。

ツツガムシ病は現在も存在し、世界では年間約100万例、日本では約500例の感染報告があり、第4類感染症に指定され、届出の必要がある。

さて、懸念されたコロナの第8波も終息に向かい、政府は3月にマスク着用の自主化を、5月には第2類から第5類への変更を決定し、少し出口が見えてきた感があるが、この先、基礎疾患罹患者や高齢者をはじめとする戦いは、まだまだ続きそうだ。改めて、最前線で変わらず長きにわたり戦っておられる医療関係者の方々に、心から敬意を表したい。もちろん、毎日フラストレーションと戦っておられる全国の皆様にも敬意を表したい。

早いもので、もう7月である。この春に入学してきた「この子は大丈夫だろうか?」と思っていた学生の表情にも、わずかながら自信と余裕が伺えるようになった。この暑い7月と8月が過ぎれば、今年も後半戦に入る。

関係各位の後半戦の毎日が、「どうか恙ないものでありますように」と切に祈りたい。

広報・調査委員会
仙台赤門医療専門学校 亀井 啓

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 広報誌 **会 報** 第67号

令和5年7月 発行

発 行 所 公益社団法人 全国柔道整復学校協会

発 行 人 谷 口 和 彦

〒105-0013 東京都港区浜松町1丁目6-2

丸神ビル1階

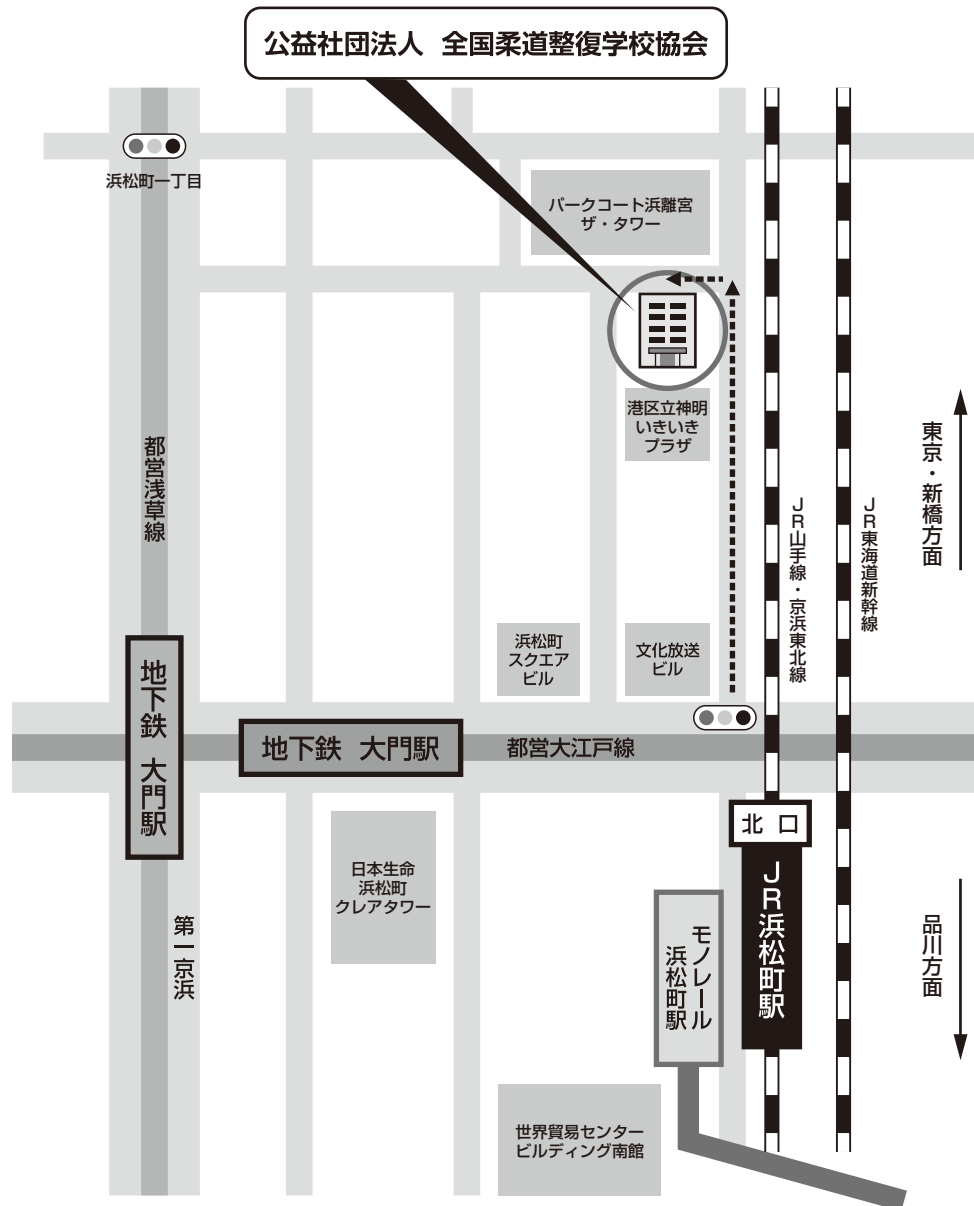
電 話 03-5405-1690

F A X 03-5405-3790

ホームページ <https://www.judo-seifuku.or.jp/>

印 刷 所 大和綜合印刷株式会社

案内図



アクセス

- ・JR「浜松町駅」北口より徒歩5分
- ・都営地下鉄浅草線「大門駅」B1より徒歩5分
- ・都営地下鉄大江戸線「大門駅」B1より徒歩5分

所在地

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

〒105-0013

東京都港区浜松町1丁目6-2丸神ビル1F

TEL：(03) 5405-1690 FAX：(03) 5405-3790

専科教員認定講習会

公益社団法人 全国柔道整復学校協会



公益社団法人 全国柔道整復学校協会は、
専科教員資格取得のための講習会を
開催しています。

教員資格を取得するためには、
専科教員認定講習会の受講が必要です

来年度の詳細は、2024年3月に学校協会
ホームページにて公開の予定です



www.judo-seifuku.or.jp

THE JAPAN ASSOCIATION OF JUDO-SEIFUKU COLLEGES

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

〒105-0013 東京都港区浜松町1丁目6-2 丸神ビル1階

TEL.03-5405-1690 FAX.03-5405-3790

